

リアホナ

表紙の記事

大切な贈り物
2ページ

預言者ジョセフ・スミスから
受け継いだもの
28, 32ページ

モルモン書を読むチャレンジに
こたえて得たすばらしい結果
34ページ

宿屋の主人の教訓
F10ページ

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリン、グ・ディーター、F・ウーグトルフ、デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ゼンセン

顧問:モンティ・J・ブラフ、ゲリー・J・コールマン、菊地良彦

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク

編集ディレクター:ビクター・D・ケーブ

主任編集者:ラリー・ヒラー、リチャード・M・ロムニー

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボグ

編集主幹:ビクター・D・ケーブ

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長:ライアン・カー、アダム・C・オルソン

編集補佐:スーザン・バレット

編集スタッフ:シャナ・バトラー、リンダ・ステル・クーバー、ラリー・ポーター、ガート、R・バル・ジョンソン、キャリー・カステン、メルビン・リービット、サリー・J・オデカーク、ジュディス・M・バーラー、ピビアン・ポールセン、サラ・R・ポーター、ジェニファー・ローズ、ドン・L・サール、レベッカ・M・テラー、ロジャー・テラー、ジャンネット・トーマス、ポール・バンデンバーク、ジュリー・ワデル、キンバリー・ウェップ

主任秘書:モニカ・L・ディッキンソン

編集インターン:ブリタニー・ジョンズ・ビーム、ニコール・セイモア

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロジ、コレット・ネベカー、オース、ワード・G・ブラウン、ジュリー・バーテッド、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、デニス・カービー、タッド・R・ピーターソン、ランドール・J・ピクストン

印刷ディレクター:クレーク・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「[リアホナ]注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/001000-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●[リアホナ]のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)
半年予約 1,200円(送料共)
普通号/大会号 200円

[リアホナ]への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メール: liahona@ldschurch.org

[リアホナ](モルモン書に出てくる言葉、「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、キリバス語、クロアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアン語、タイ語、タガログ語、タミル語、タミル語、中国語、チェコ語、デルク語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ルウウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、フィンランド語、フィリピン語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、モンゴリア語、トピア語、リトニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2006 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月 原題—International Magazines December 2006. Japanese. 26992 300

[リアホナ]は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:
December 2006 no. 12 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA. Subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

一般

- 2 大管長会メッセージ——大切な贈り物 トーマス・S・モンソン管長
- 10 歌——キリスト、神の御子
ジェームズ・E・ファウスト、ジャン・ピンボロー、マイケル・フィンリンソン・ムーディー
- 14 観察が鋭い デビッド・A・ベドナー長老
- 21 初めてのクリスマス エイブラハム・メネス・サグレロ
- 25 家庭訪問メッセージ——扶助協会に所属する祝福
- 34 チャレンジにこたえて
- 39 香港神殿が建つまで モンティ・J・ブラフ長老、ジョン・K・カーマック長老
- 42 旧約聖書からの教訓——父の最期の言葉 ホルヘ・ルイス・デル・カスティヨ長老
- 44 末日聖徒の声

3人の手に渡ったクリスマスプレゼント

デリーン・グラスミック
クリスマスのタマーレ
イナ・ブルシオン
気難しい隣人
ダイアン・ハバード
空っぽのポケット
ジェリー・L・ザーク

48 読者からの便り



39 香港神殿が
建つまで

家庭の夕べのためのアイデア

クラスでのレッスンや家庭において、このページに提案されているアイデアを役立てることができます。

「観察が鋭い」14ページ——みんなが見えるところに、物をいくつか置いてください。家族に目をつぶってもらい、そのうちの一つを隠してください。目を開けてもう一度見たとき、なくなった物を家族が鋭い観察力で思い出せるか、試してください。記事からいくつかの事例を声に出して読み、観察力を磨くことの大切さを教えてください。

「回復のおかげで……」32ページ——「回復のおかげで……」と書いた

紙を配ります。答えを書く余白を残しておいてください。みんなで記事を調べ、空欄を埋める答えを探してください。回復のおかげで次の1週間のうちにどのような祝福を受けたかを書き留めるように勧めてください。次の家庭の夕べで、書いたことを発表するよう言ってください。

「3人が入れる部屋」F10ページ——家族全員を、できるだけ小さな円の中に立たせてください。円の中にうまく立つために、どのようなことをしなければなりません。「抱き合う」「小さな子供を抱き上げる」などの答えがあるでしょう。互いに譲り



青少年

- 9 ポスター——
救い主のための場所を設ける
- 12 喜びを分かち合う
コンスエロ・コネサ・レオーネ
- 22 質疑応答——
両親が離婚していて、神殿で
結び固めを受けることができ
ないので、自分の家族が「真
の」末日聖徒の家族ではない
ような感じがすることがあり
ます。教会の中では疎外され
ているような気がしてきました。
このような気持ちをどう
すればよいのでしょうか。
- 26 「祈らないのかい？」
リン・A・ミケルセン長老
- 28 時計とボタンとジョセフのマント
サリー・オデカーク
- 32 回復のおかげで…… マンディ・アンドレ



28 時計とボタンと
ジョセフのマント

こんげつごう
今月号のどこかに隠れている
CTRリングを捜しながら、
クリスマスの
ほんとうの意味を
考えてください。



合い、家族で一致して生活していく
にはどうしたらよいか、話し合っ
てください。

「かれらはそれを喜んでくれる」
F12ページ——預言者が持っている
特質とはどのようなものか、家族に尋
ねてください。様々な特質の中で、
より重要な特質にはどのようなもの
がありますか。預言者ジョセフ・スミ
スは、生活や人々との触れ合いを楽
しむ能力がありました。そしてその
能力により、青年期に、後の生涯に
影響を及ぼす経験をしました。これ
らのことを記事から読み、話し合っ
てください。預言者が愛を示し、励
ましを与えた話や、そのことに対す

る感想を分かち合うよう家族に勧め
てください。

「約束を覚える」 F14ページ——教
義と聖約第3章を開いてください。
ジェイ・E・ジェンセン長老が経験し
たことを読み、長老が引用した聖句
について研究してください。その聖
句に記された約束を見つけ、話し
合ってください。霊的な約束を思い
起こして奮起したときのことを話す
よう、家族に勧めてください。

フレンド

- F2 だいかんちょう会からせかい中の子どもたちへの
クリスマスメッセージ——
クリスマスの光
- F4 分かち合いの時間——天のお父さまからおくれたおん子
エリザベス・リックス
- F6 ウィルフォード・ウッドラフだいかんちょうのしょうがいから
——生けんめいにはたらく人
- F8 クリスマスの話を学ぶ一週間
- F10 3人が入れる部屋 ステーシー・A・ヒープス
- F12 かれらはそれを喜んでくれる
パトリシア・R・ジョーンズ
- F14 小さなお友だちへ——
約束を覚える
ジェイ・E・ジェンセン長老

F4 天のお父さまから
おくれたおん子



表紙

表紙——絵/エリック・P・ジョンセン

裏表紙——「ジョセフ兄弟」の一部、デビッド・リンスレー画。写真/ウエルデン・C・アンダーセン

「フレンド」表紙

写真/クリスティーナ・スミス、写真はイメージです

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

| | | | |
|---|--------------------|-----------|---------------------|
| 愛 | 2, 44, 45, F10 | 祝福師の祝福 | F14 |
| 証 | 26, 34 | ジョセフ・スミス | |
| イエス・キリスト | 26, 28, F12 | 神殿 | 39 |
| 祈り | 26, 47 | 聖文研究 | 14, F14 |
| 教えること | 1, 8, 25 | 聖霊 | 14 |
| 贈り物 | 2, 44, 45 | 懐み | 32 |
| 音楽 | 10, 12 | 伝道活動 | 12, 45 |
| 回復 | 32 | 扶助協会 | 25 |
| 家族の一致 | 22, F10 | 平安 | 2 |
| 家庭の夕べ | 1 | ホームティーチング | 8 |
| 家庭訪問 | 25 | モルモン書 | 34 |
| 観察力 | 14 | 模範 | 26 |
| クリスマス | F4, F14 | 約束 | F4, F14 |
| 2, 9, 12, 21, 44, 45, 47, F2, F4, F8, F10 | | 預言者 | 34, 39, F4, F6, F12 |
| 慈愛 | 44, 45, F10 | 離婚 | 22 |
| 仕事 | F6 | 両親 | 2, 22 |
| 什分の一 | 42 | 霊的な賜物 | 14 |
| 祝福 | 21, 25, 32, 34, 47 | レクリエーション | F12 |



大切な贈り物

大管長会第一顧問

トーマス・S・モンソン管長

デビッド・O・マッケイ大管長(1873 - 1970年)がよく言っていたことがあります。手紙の返事を出す、電話をかける、人に会う、会合に出る、といった日々の雑用を離れて、永遠の真理や、万人の願いである喜びと幸福の源について思いをさせ、深く考える必要がある、というのです。

そのようにすると、決まり切ったことを繰り返す毎日に霊的な要素が加わり、日々の生活がいきいきとしてきます。わたし自身、マッケイ大管長の勧めに従うときにはいつも、家族への思い、友人との経験、特別な日や静かな夕べに過ごしたかけがえのない思い出が次から次へと浮かんで来て、幸福で満ち足りた思いに包まれます。

クリスマスの季節になると、その特別な意味に思いが向き、自然に涙が込み上げてきて、神への忠誠心が新たになります。

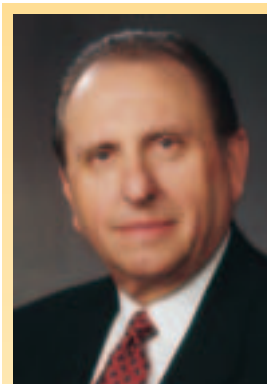
わたしは対照的な二つのクリスマスについて深く考えています。一つは、豪華に見栄えがするよう包装された贈り物です。それらは、「何もかも持っているあなたへ」という有名な宣伝文句のカタログの中で、今を盛りとひしめいています。あるカタログを見ると、100坪余りの家に巨大なリボンがかけられ「メリークリスマス」の大きなカードが添えてあります。ほかにも、ゴルフ好きにはダイヤをちりばめたク

ラブ、旅行好きにはカリブ海クルーズ、冒険好きにはスイスアルプスへの豪華旅行といった贈り物が掲載されています。

もう一つは、O・ヘンリーが書いた、あの忘れられないクリスマスの物語です。主人公の若い夫婦は、貧しい中で互いに特別な贈り物をしたいと願っていました。彼らには贈れるものなど何一つありません。夫に名案が浮かびました。「愛する妻の美しい長い髪が引き立つように、細工のきれいな髪飾りを贈ろう。」妻にも良い考えが浮かびました。「夫の大事な懐中時計にぴったり、すてきな鎖を買いましょう。」

やがてクリスマスの日になり、大切な贈り物を交換しました。それから物語は、O・ヘンリーの短編ではよくある手法ですが、あっと驚く結末で幕を閉じます。妻は懐中時計の鎖を買うために長い髪を切って売ってしまい、そうとは知らず、夫は妻の美しく長い髪を引き立てる髪飾りを買うために時計を売ってしまったのです。¹

我が家の片隅に、握り部分に銀メッキを施した小さな黒い杖がしまっており、かつては遠い親戚が使っていたものです。70年以上の間、なぜこの杖を保管していると思いますか。それには特別な理由があります。幼いころ、わたしはワードのクリスマス劇に出演しました。光栄にも、3人の博士の一人を演じました。頭にはスカーフを巻き、母のピアノのいすカバーを肩にかけ、あの黒い杖を持って、せりふを言いました。「ユダヤ人の王としてお生れになっ



主は
わたしたちが
永遠に生きられるように
亡くなられました。
復活の朝を迎える前に、
主は神の計画に従って
苦痛を経験されなければ
なりませんでした。
イースターの前には、
十字架上の苦しみがあつたのです。
この世で、
これ以上大いなる
贈り物はありません。

たかたは、どこにおられますか。わたしたちは東の方でその星を見たので、そのかたを拜みにきました。』² 今でも鮮明に思い出せませす。「3人の博士」になったわたしたちは、星を見上げ、舞台の端から端まで旅をして、マリヤと幼子イエスを見つけ、伏してイエスを拜し、贈り物として黄金、乳香、没薬をささげたのです。

物語で特に好きだったのは、博士たちが邪悪なヘロデのところへ戻って幼いイエスを裏切るようなまねはせず、神に従って別の道を帰って行ったところでした。

時は瞬く間に過ぎ去りましたが、あのクリスマスの杖は、今も我が家の、ある場所にしまっており、キリストへの忠誠心は常にわたしの心を占めています。

これからしばらくの間、仰々しいうたい文句が並ぶクリスマスプレゼントのカタログのことは忘れましょう。お母さんへの花束や、お父さんへのすてきなネクタイ、かわいらしい人形や、汽笛の鳴るおもちゃの汽車、ずっと待っていた自転車、本やビデオのことも、考えないようにしましょう。その代わりに、神から与えられた、朽ちることのない贈り物に思いを向けましょう。神が下さったたくさんの贈り物の中から、わたしは次の4つを採り上げることにします。

1. 誕生という贈り物
2. 平安という贈り物
3. 愛という贈り物
4. 永遠の命という贈り物

初めに、誕生という贈り物について話しましょう。これは地上のすべての人に授けられるものです。誕生は神聖な特権です。誕生により、わたしたちは天の家を離れて肉体という幕屋に宿ります。そして、天の御父と愛する人々の待つ日の栄えという王国に戻るふさわしさを、地上の生活を通して証明するのです。このすばらしい贈り物は、母親と父親から受けました。わたしたちは、この贈り物に対する感謝を、日々の行いによって示す責任があります。

印刷業を営んでいた父から、父が印刷したものをもらったことがあります。「父からの手紙」という題の付いたその文章は、次のように締めくくられていました。「親として、わたしの



**平安に通じる道は、
祈りです。
無意味な言葉の
繰り返しではなく、
へりくだって
心の内を話すなら、
求めている平安が
得られるでしょう。**

いちばんの願いを話そう。それは、おまえに最初の子供が生まれたとき、おまえがその子を見詰めながら、心からこう思ってもらえるような父親になることだよ。『ほくも父さんのような父親になりたい。』それ以上の賛辞を望める人がいるだろうか。愛を込めて、父より。」

誕生という贈り物をくれた母親への感謝は、父親への感謝に勝るとも劣りません。「神のみもとから地を潤すために咲いた、かぐわしい1輪の花」³のようにわたしたちを迎えてくれた母。すべての必要を満たし、泣き声を上げる度に慰めてくれた母。何かを成し遂げたときにはともに喜んでくれた母。失敗し、落胆したときには涙を流してくれた母。そんな母親の存在は、わたしたちの心の中で、何にも勝って栄えある位置を占めています。

ヨハネの第三の手紙には、誕生という贈り物をくれた両親にどう感謝を表すべきかを教えた節があります。「わたしの子供たちが真理のうちを歩いていることを聞く以上に、大きい喜びはない。」⁴ わたしたちもぜひ、そのように歩もうではありませんか。誕生というかけがえのない贈り物をくれた両親に、敬意を示しましょう。

二つ目は、平安という贈り物です。わたしたちが生活するこの世は喧噪を極め、世界を悩ます諸問題はもとより、車の騒音、テレビやラジオのやかましいコマーシャル、慌ただしい毎日のスケジュールだけを取っても、頭痛や心痛の種になり、立ち向かう気力がうせませす。病気という重荷を負い、愛する人の死に打ちひしがれるとき、わたしたちは天の助けを求めてひざまずきます。はるか昔の人々と同じように、こう問うかもしれません。「ギレアデに乳香はないのでしょうか」⁵と。次の詩は、実に悲しみや絶望に満ちています。

悲しみのない世などどこにあるうか
苦しみを知らぬ心などどこにあるうか
まことの平安をこの世に求めても
見いだす者は一人もない⁶

けれども、悲しみの人であり、病を知っておられた主は、悩めるすべての人に語りかけ、平安という贈り物を与えてくださいます。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの

平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。』⁷

主は、全世界で働く宣教師の口を通して、平和のよきおとずれである福音を告げておられます。「わたしはどこから来たのだろうか」「この世に生を受けた目的は何だろうか」「死んだ後どこへ行くのだろうか」という、心騒ぐ疑問に対して、主は御自身の特別な僕しもべを通して答えをお与えになるのです。平和の君、主イエス・キリストに仕えるよう召された僕たちが、大胆かつ謙遜けんそんに真理を教えるとき、悩みは去り、疑いは姿を消し、いぶかる思いはなくなります。主からの贈り物は一人一人に授けられます。「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中うちにはい[る]であらう」⁸と主は約束しておられるのです。

平安に通じる道は、祈りです。無意味な言葉の繰り返しではなく、へりくだって心の内を話すなら、求めている平安が得られるでしょう。

シェークスピアの『ハムレット』の中で、邪悪な王クロードはひざまずいて祈ろうとします。ところが彼は立ち上がってこう語ります。「ことばは天を目指すが心は地にとどまる、心のともなわぬことばがどうして天にとどこうか。』⁹

平安という贈り物を受け、その贈り物に感謝した人物にジョセフ・ミレット兄弟がいます。教会歴史の初期の時代に、カナダの大西洋岸地域で伝道した人物です。ミレット兄弟は、伝道中また伝道後の経験を通して、天の助けに頼ることがいかに必要であるかを学びました。彼の日記には、純粋な深い信仰が美しく描かれています。

「うちの子が帰宅して、ニュートン・ホール兄弟の家族はその日のパンがなくて、何も食べていないと言う。

そこで、我が家の小麦粉を分けて袋に入れた。ホール兄弟のところに持って行かせるためだ。ちょうどそこへホール兄弟が訪ねて来た。

『ホール兄弟、小麦粉がなくなったのですか』と聞くと、

『ミレット兄弟、何も無いのです』と言う。

『そうですか、ホール兄弟、この袋に幾らか入っています。今、これを分け終わって、これからお宅に持って行かせようとしていたところでした。お宅のお子さんからうちの子が窮状を聞いて来たのです。』

誕生という贈り物は地上のすべての人に授けられたものです。誕生は神聖な特権です。誕生により、わたしたちは天の家を離れて肉体という幕屋に宿ります。そして、天の御父〔のもとに〕戻るふさわしさを、地上の生活を通して証明するのです。



現代社会では
老齢に達した
非常に
多くの人々が、
孤独な生活の中で
真実の愛に
飢え渴いています。

ホール兄弟は泣き出した。ほかを当たって見たのだが、だれからももらえなかったと言う。それで杉林に行って主に祈ったら、主がジョセフ・ミレットのところへ行くように言われたそうだ。

『ホール兄弟、お返しは要りませんよ。主がわたしのところへ来るようにおっしゃったのなら、借りなどなしです。』

何とすばらしいことであろうか。主は、ジョセフ・ミレットという人間がいることを御存じだと、はっきり分かったのだ。¹⁰

ニュートン・ホールとジョセフ・ミレットの二人は、祈りによって平安という贈り物を得たのです。

3つ目は、愛という贈り物です。「先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか」という律法学者の問いに対して、主は速やかにこう答えられました。

『「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

第二もこれと同様である、『自分を愛するようあなたに隣り人を愛せよ。』¹¹

主はまた、「わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は、わたしを愛する者である」¹²ともお教えになりました。聖典は、愛の大切さと愛が人生に及ぼす影響についての教えで満ちています。モルモン書の中では、慈愛はキリストの純粋な愛であると教えられています。¹³ 主は自ら、見習うべき理想的な模範を示してくださいました。聖典には「このイエスは、神が共に

おられるので、よい働きをしながら……巡回されました」¹⁴と記されています。

ミュージカルの名作『サウンド・オブ・ミュージック』中の言葉は、すべての人に当てはまるものです。

鐘は鳴らさなければ鐘ではない。
歌は歌わなければ歌ではない。
愛もまた、人に与えるまで愛ではない。
——愛は心に秘めておくためにある
のではないのだから。¹⁵



現代社会では老齢に達した非常に多くの人々が、孤独な生活の中で真実の愛に飢え渴いています。人生の折り返し地点を過ぎ、抱いていた夢や希望がかなえられぬままに年を重ね、健康と力が衰えていく寂しさと隣り合わせに生活しているのです。

「高齢の方々が孤独な生活の中で求めているものは、わたしたちが揺れ動いていた若い時代に必要としていたものと、少なくとも幾分か同じです。それは、自分を必要としている仲間がいるという感覚であり、単なる社交辞令ではなく心からの愛にあふれた親切であり、建物の中に居場所があるだけでなく、だれかの心の中、生活の中に入れてもらうことなのです。……」

若い日々を取り戻してあげることはできません。しかし、思いやりを示し、必要を満たし、偽りのない愛を示すことにより、晩年をより美しく、輝きのある日々にする手助けをすることができます。」¹⁶ これは、何年か前に十二使徒定員会のリチャード・L・エバンズ長老(1906 - 1971年)が記した言葉です。

時として、お年寄りの大切さを子供から教えられることがあります。この真理をよく表しているパキスタンの民話を紹介しましょう。

年老いたおばあさんが、娘と孫とともに住んでいました。おばあさんは、老齢のために衰弱するにつれて、家の手伝いはおろか、自分のことさえできなくなりました。そして、皿やコップを割ったり、ナイフをなくしたり、水をこぼしたりして、よく問題を起こすようになりました。ある日のこと、おばあさんに大切な皿を壊されて憤慨した娘は、息子にこう言い付けました。「おばあさんに木の皿を1枚買って来てちょうだい。」木の皿を使わせたらおばあさんの自尊心を傷つけることになるかと分かっていた息子はためらいました。しかしどうしても買って来るようにと言われて、出かけました。息子は木の皿を2枚買って戻って来ました。

「1枚って言ったのに、聞いてなかったの」と母親は言いました。

「聞いてたよ。でも、もう1枚はお母さんが年を取ったら使えるように買ったんだ。」

わたしたちはよく、受けた親切や助けに感謝や愛を伝えるのに、長い歳月を費やしてしまうことがあります。恐らく、ジョージ・ハーバートも一度そのような経験をしたので、次のように



御父とその御子、
主イエス・キリストが
おいでに
ならなかったとしたら、
家族、友達、幸福、
知識、証など、
わたしたちにとって尊く、
大いなる価値を持つ
すべてが消えうせてしまう
ことでしょう。

祈ったのでしょう。「主よ、あなたは〔わたしに〕多くを与えてくださいましたが、もう一つ、お与えください。……感謝する心を。」¹⁷

数人の男性が集まり、人生に影響を与えてくれた人、感謝している人について話し合いました。その中の一人の男性は、高校の恩師のことを思い出しました。詩人テニソンについて初めて教えてくれた女性です。彼は感謝を伝える手紙を書くことにしました。

やがて、弱々しい筆でつづられた返事が届きました。

「親愛なるウィリー、

あなたの手紙をもらってどんなにうれしかったことでしょう。わたしはもう80歳を過ぎ、小さな部屋で一人分の食事を作り、まるで枝にしがみついた最後の葉のように寂しいひとり暮らしをしています。50年間の教師生活で、感謝の手紙を受け取ったのはこれが初めてだったと知ったら驚くでしょうね。寒く、寂しい朝に届いたあなたの手紙は、何年も感じたことのない喜びをもたらしてくれました。」

わたしはこの話を読んで、大切に語り継がれてきた次の一文を思い出しました。「神は、二つの場所に宿られる。一つは天に、そしてもう一つは感謝する心に。」

愛という贈り物については語り尽くせませんが、次の詩でこの尊い贈り物についてまとめることにします。

人の必要に気づかずに、
まくらを涙でぬらした夜は
数知れない。
だが、ほんの少し人に尽くしすぎたからといって
悔やんだことは
一度もない。¹⁸

4つ目は、命、すなわち永遠の命という贈り物です。天の御父の救いの計画は、真実の愛の究極の姿です。御父とその御子、主イエス・キリストがおいでにならなかったとしたら、家族、友達、幸福、知識、証など、わたしたちにとって尊く、大いなる価値を持つすべてが消えうせてしまうことでしょう。次に読む神の言葉は人々に最も愛され、慈しまれてきた真理です。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛し

て下さった。それは御子^{みこ}を信じる者がひとりも減びないで、永遠の命を得るためである。」¹⁹

ここで語られている、かけがえのない御子、主であり救い主である御方は、わたしたちすべての罪^{あがな}を贖ってくださいました。あの忘れられぬ晩、主がゲツセマネの園で受けられた苦しみはあまりに大きく、「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままではなく、みこころのままになさって下さい」²⁰と嘆願されたほどでした。そして、主はわたしたちが永遠に生きられるように、あの残酷な十字架の上で亡くなりました。復活の朝を迎える前に、主は神の計画に従って苦痛を経験されなければなりません。イースターの前には、十字架上の苦しみがあったのです。この世で、これ以上大なる贈り物はありませんし、この不滅の愛に勝るものはありません。

ニーファイはわたしたちの果たすべき責任をこう記しています。

「あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。……キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は、『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。

さて、……これが道である。そして、このほかには人を神の王国に救う道も名も天下に与えられていない。」²¹

最後に、敬愛する預言者、ハロルド・B・リー大管長の言葉を引用して、わたしの話を締めくくります。「人生は神から人への贈り物。人生でなすことは人から神への贈り物。」

神がわたしたちに豊かに与えてくださったように、わたしたちも惜しみなく神にささげることができますように。天の御父と御子が忍耐強く教えてくださったように生き、人を愛することがわたしたちから主への贈り物なのです。■

注

1. 「賢者の贈り物」参照
2. マタイ2:2
3. ジェラルド・マシー、*The New Dictionary of Thoughts* (1959年)、39
4. 3ヨハネ1:4
5. 欽定訳エレミヤ8:22から和訳
6. 作者不詳
7. ヨハネ14:27
8. 黙示3:20
9. 小田島雄志訳『ハムレット』第3幕第3場、146、白水社、シェークスピア全集
10. ジョセフ・B・ワースリン「人生という旅の中で学んだ教訓」『リアホナ』2001年5月号、41
11. マタイ22:36-39
12. ヨハネ14:21
13. モロナイ7:47参照

14. 使徒10:38
15. リチャード・ロジャーズ、オスカー・ハマースタイン2世、“Sixteen Going on Seventeen” (1959年)
16. *Thoughts... for One Hundred Days* (1966年)、222
17. リチャード・L・エバンズ、*Richard Evans' Quote Book* (1971年)、238で引用
18. リチャード・L・エバンズ、“The Quality of Kindness,” *Improvement Era*, 1960年5月号、340
19. ヨハネ3:16
20. マタイ26:39
21. 2ニーファイ31:20-21

ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. この世的に価値のあるものを幾つか家族の前に置く(菓子、財布、おもちゃなど)。その中でどれがいちばん価値があると思うか、家族に尋ねる。次に、金銭に換えられない価値のあるものを見せる(例えば、家族の写真、日記、聖典など)。この記事の最初の4段落を読む。クリスマスに贈る物質的なものと霊的なものを比べる。深い意味が込められた贈り物を尊ぶように、またそのような贈り物をするように、家族に勧める。

2. モンソン管長が述べた4つの贈り物を表すものを前もって準備しておく(例えば、贈り物を包装したり、絵を描いたりしておく)。贈り物を一つずつ家族に渡し、記事の中の例や話を基にして話し合う。救い主の寛容さについて証し、主に対し、命を頂いていることを感謝する方法について話し合う。

3. 家族に、永遠に続く贈り物について考えてもらう。永続する贈り物にはどのような特質があるか尋ねる。モンソン管長が語った4つの贈り物を挙げ、その贈り物によってどのように永遠が形作られるかについて話し合う。今年のクリスマスに、永遠に影響を及ぼす贈り物をプレゼントするよう、家族に勧める。

救い主のための場所を設ける



主を生活にお招きしましょう。(ヨハネ14:23参照)

「副」には糸地がなかつたハリ・マツダ・ン画、セ・ンステ・アド・ンマ・スト教会の原書に於ての描、描写は悉くして行はる。

キリスト, 神の御子

敬虔に ♩ = 58-66

1. しゅ の や さ し き こ え こ こ ろ
 (2. ゲツ セ マ) ネ の そ の で い の ら

mp

に ふ か く ひ び く つ み に く る し ま
 れ た しゅ の こ と ば な が さ れ た そ の

れ た す く い め し に ま み え て そ の き
 ち に しゅ の ふ か き あ い か ん じ よ ろ こ

次第にゆるやかに 元の速さに戻る

ず に ふ れ て あ か し を す る キ リ ス
 び に あ ふ れ あ か し を す る

ゆっくりと

詞：ジェームズ・E・ファウスト（1920- ），ジャン・ピンボロー（1954- ）

3ニーファイ11：3-17

曲：マイケル・フィンリンソン・ムーディー（1941- ）

ルカ22：42, 44

©1995 James E. Faust, Jan Pinborough, and Michael Finlinson Moody

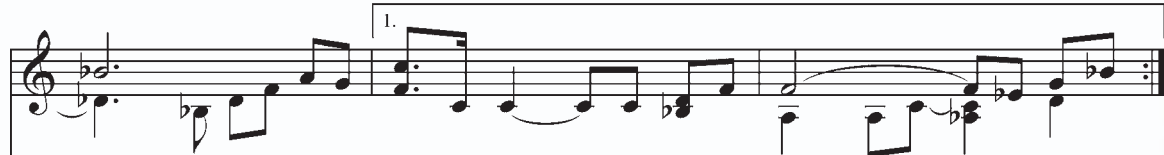
この曲は、教会あるいは家庭における一時的また非営利目的の使用にかぎり、複製することを許可する。



ト *mf* キリ ス ト か み の お ん こ ひ と の つ み
元の速さに戻る



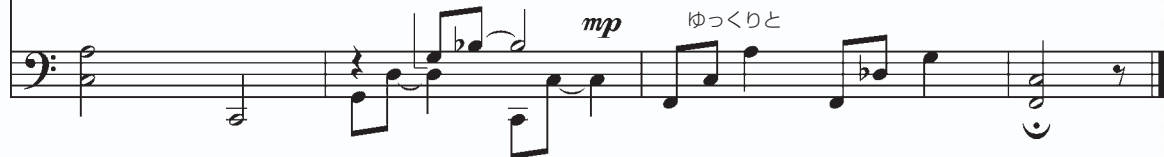
を あ が な い れ い を も いや し た も



う か み の あ い に よ り て 2. ゲ ツ セ マ



の あ い に よ り て



喜びを 分かち合う

コンスエロ・コネサ・レオーネ

19 63年のことです。わたしはアルゼンチン北伝道部で専任宣教師として働いていました。10人の長老とわたしたち二人の姉妹は、メンドーサの3つの小さな支部で働いていました。

12月とともにクリスマスがやって来ました。わたしが伝道に出てから最初のクリスマスです。わたしたちは期待に胸を膨らませながらクリスマスイブの計画を立てました。長老たちは2頭立て4輪馬車の御者を雇いました。皆で街中を回るためです。そして、幾つかの街角に馬車を止めるよう計画しました。そこ

には、クリスマス前の最後の買い物をしようと急ぐ大勢の人々がいるからです。


出発の時間が来ました。わたしたち12人は馬車に乗り込み、馬車のわきや後ろに足を突き出して座りました。御者はゆっくりと馬車を走らせました。

わたしたちはあらかじめ選んでおいた4、5ブロックごとの街角に馬車を止めました。馬車を降りると、姉妹が前で長老たちが後ろになるように、半円形に立ちました。そして賛美歌集を開き、夜の街に何度も何度もクリスマスキャロルを響かせました。

「もろびと、こぞりて迎えまつれ。」男性も女性も、若者も子供も、立ち止まっては耳を傾け、クリスマス精神を感じています。その多くは、これから祝おうとしているクリスマスのほんとうの意味を思い出したかのように、驚いた様子でした。

次の街角に向かって馬車が動き出すと、賛美歌を聴いていた人々の多くがわたしたちについて来るのに気づきました。その数はどんどん増えていきました。わたしは、涙越しに、彼らの笑顔が見えました。どんなにうれしかったことでしょう。わたしたちは望んでいた以上にたくさんの人たちから、連絡先を教えられるったり、友達を紹介してもらったりしました。

集まった人々は「もろびと、こぞりて」(『賛美歌』116番)をもう一度歌ってくれるようにと言いました。わたしたちが歌うと、涙を流して聞いてくれました。あの忘れられないクリスマス



イブに、御^み霊^{たま}が心の琴線に触れたのでしょ

う。それから40年以上たちましたが、宣教師として迎えた初めてのクリスマス思い出す度に、今でも感謝の念が胸にあふれます。御子を遣わしてくださった天の御父に感謝しています。また、主の降誕によってまことに世に喜びがもたらされたのだという知識を与えてくださったことにも感謝しています。■

最高の贈り物

皆さんが今までに贈ったりもらったりした最高のクリスマスプレゼントについて教えてください。どのようなプレゼントでしたか。なぜ特別に感じたのですか。下記までお送りください。

Liahona, Best Christmas Gift
50 E. North Temple St., Rm. 2420
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA
電子メール: liahona@ldschurch.org



観察が鋭い

十二使徒定員会

デビッド・A・ベドナー長老

19 87年10月の総大会で、十二使徒定員会のマービン・J・アシュトン長老は霊的な賜物について話しました。わたしは当時、長老のメッセージから大きな影響を受けました。そして、その影響は今も続いています。メッセージの中でアシュトン長老は、あまり目立たない霊的な賜物、すなわちわたしたちの多くがあまり認識していない属性や能力について例を挙げて説明しました。アシュトン長老が強調したものには、例えば、人に質問をする、人の話によく耳を傾ける、静かな細い声に聞き従う、人のために嘆き悲しむ、争いを避ける、人当たりがよい、むなしい言葉を繰り返さない、義を追い求める、神に導きを求める、キリストの弟子としてふさわしい生活をする、人々に関心を向ける、物事を深く考える、力強い証^{あかし}を述べる、聖霊を受ける、などがあります（『聖徒の道』1988年1月号、20参照）。

ほかにも一見単純で、しかも正当に評価されていないと思われる霊的な賜物である「観察が鋭い」（モルモン1：2）という能力は、皆さんやわたしが現在生きている、そしてこれからも生きていくこの世にあって、きわめて重要な賜物です。

観察が鋭いという霊的な賜物

わたしたちは皆、モルモン書の主要な登場人物から重要な教えを学んでいます。ニーファイやレーマン、アルマやノア王、モロナイやそのほか大勢の人物の生涯について読んだり研究したりするとき、わたしたちは、すべきことと、してはならないことが分かりますし、なるべき人物と、なってはならない人物について、よりよく理解できます。

モルモン書を研究する度に特に感銘を覚えるのは、ニーファイ人の記録の大部分を編さんしたモルモンの記述が実に詳細なことです。この高潔な預言者の記述の中で、特に注意を向けたいと思うのは、モルモン書第1章の最初の5節にあります。

「さて、わたしモルモンは、自分がこれまでに見聞きしたことを記録して、これをモルモン書と呼ぶ。

アマロンは数々の記録を主に託して隠したころ、わたしのところにやって来た。（当時わたしは十歳くらいで…… [あった。]）そして、アマロンはわたしに言った。『わたしはあなたがまじめな子供で、観察が鋭いことを知っている。

だから、あなたが二十四歳くらいになったら、この民についてあなたが見てきたことを思い出してもらいたい。……

見よ、あなたは……この民についてあなた



観察が鋭くなりさえすれば、崇高な識別の賜物や、それに付随する守りと導きの力を得ることを願えるのです。



「**観**察が鋭い」と形容されているモルモン

は次のように記しました。

「わたしモルモンは、自分がこれまでに
見聞きしたことを
記録〔する。〕」

皆さんが研究し、学び、
成長していくに従って、
観察が鋭いとは
どういうことか
について学び、
実際に
観察の鋭い人物に
なってほしいのです。

が見てきたことをすべてニーファイの版に刻みなさい。』

わたしモルモンは……アマロンから命じられたことを思い出した。(モルモン1：1-5、強調付加)

モルモンは、若い時分でさえ、「観察が鋭い」と形容されています。わたしは、皆さんが研究し、学び、成長していくに従って、観察が鋭いとはどういうことかについて学び、実際に観察の鋭い人物になってほしいと願っています。皆さんの今後の成功や幸福は、大部分この霊的な賜物によって決まるからです。

どうぞこの霊的な賜物の大切さについて考えてください。観察が鋭いとは「注意を向ける」「理解する」「気づく」という意味でもあります。これはイザヤ書第42章20節から学ぶことができます。「多くの事を見ても認めず、耳を開いても聞かない。」(強調付加)

観察が鋭いとは「従う」「守る」という意味でもあります。このことは教義と聖約によって明らかです。「しかし、聖約を守り、戒めに従ってきた者は幸いである。彼らは憐れみを受けるからである。」(教義と聖約54：6、強調付加)

ですから、観察が鋭ければ、わたしたちは即座に注意を向けて、従うでしょう。注意を向ける、そして従うという二つの基本要素は、観察が鋭くなるためには不可欠です。預言者モルモンは、この賜物を用いた見事な模範です。

さて、皆さんやわたしが祝福されて観察が鋭いという賜物を得たときに学べる事柄を幾つか紹介しましょう。

わたしにはステーキ会長を務めていた親しい友人がいます。彼が管理していたステーキの祝福師は、健康上の問題があって、召しを果たすことができませんでした。病気で苦しんでいた祝福師は、動き回ることや着替え、身の回りのことをするのも困難で、体力も限界に達していました。ある安息日の午後、ステーキ会長は、祝福師を励ますために、また暮らしぶりを確かめるために、彼の家を訪れました。ステーキ会長が家に入ると、祝福師はスーツに身を包み、白いシャツにネクタイをして、居間のリクライニングチェアに腰かけていました。ステーキ会長は愛する祝福師にあいさつをしました。そして、彼にとっては着替えさえも大変なことだと知っていたステーキ会長は、安息日だから、あるいはだれ

かが訪ねて来るからとって、スーツに着替える必要はないのではないかと丁重に言いました。祝福師は、優しいながらもきっぱりした口調でステーク会長にこう答えました。「今のわたしにとって、これだけが、主をどれほど愛しているかを示す唯一の方法なのですよ。」

そのステーク会長は観察が鋭い人でした。彼はこの教訓を理解し、心にしっかり受け止め、生かしました。ステーク会長として、安息日を尊重し、安息日にふさわしい服を着て、適切に振る舞うことを、さらに重要視するようになりました。この経験に基づいて行動したおかげで、また、見る、聞く、記憶するという霊的な能力のおかげで、彼の人生は大いに祝福されました。そして、ほかの多くの人の人生をも祝福したのです。

聖餐会せいさんかいに出席する前に、ベドナー姉妹は「御霊みたまによって、助けが必要な人々に気づけますように」と、よく祈ります。集会に集まった兄弟姉妹や子供たちに注意を向けるとき、彼女はしばしば、ある人を訪問したり、電話をかけたりするようという霊的な促しを感じます。そしてこのような靈感を受けると、ベドナー姉妹は即座にそれにこたえ、従います。閉会の祈りの後で「アーメン」と言い終わるやいなや、10代の若者と話をしたり、ある姉妹を抱き締めたり、家に戻るやいなや電話をかけたりするのです。わたしがベドナー姉妹をしるようになって以来ずっと、人々の必要を識別し、それにこたえるベドナー姉妹の能力を見て、多くの人が驚嘆しています。ベドナー姉妹はしばしばこう尋ねられます。「どうして分かったの？」観察が鋭いという霊的な賜物のおかげで、ベドナー姉妹は周囲の人を理解し、即座に行動できるようになりました。そして、多くの人の人生を祝福してきましたのです。

ベドナー姉妹とわたしの知り合いのある帰還宣教師は、一人の親しい若い女性と一時期デートを重ねていました。彼は彼女をとっても愛していました。もっと真剣に交際したいと望んでいました。彼女と婚約し、結婚することを深く考え、そうなることを望んでいました。二人の交際は続き

ました。そのようなときにヒンクレイ大管長から、扶助協会の姉妹や教会の若い女性に向けて、イヤリングは1組だけにするようにとの勧告が出されました。

この若者は、彼女が余分なイヤリングを外すのを辛抱強く待っていました。しかし彼女は外しませんでした。このことは、彼が判断を下すに当たって貴重な情報となりました。預言者の訴えに従おうとしない彼女に対して、気持ちが揺らいできました。このことやそのほかの理由から、彼は結局彼女との交際をやめました。なぜなら彼は、何事

においても、いつでも、預言者の勧告に即座はんにりよにそして黙って従う勇気を持つ永遠の伴侶を探していたからです。観察が鋭い彼は、彼女の観察が鋭くないことに気づいたのです。

皆さんの中には、この3つ目の例に納得のいかない人がいるかもしれません。若者の判断は性急すぎると思うかもしれません。永遠にかかわる重要な事柄を決めるのに、そんな小さな問題を判断基準に加えるのはばかげている、狂信的だと思うかもしれません。たぶん、話の焦点が若い兄弟ではなく、預言者の勧告に従わなかった若い姉妹に向いていることが、納得のいかない原因なのかもしれません。深く考えてみてください。観察が鋭いことでどのような力を得ることができるでしょうか。また、この例の場合、実際には何

が観察されたのでしょうか。問題はイヤリングではないのです！

最後の例です。わたしは長いこと、ニーファイ第一書の第11章から第14章に記された、主の御霊とニーファイとの交流に心を引かれてきました。ニーファイは父リーハイが命の木いのちのきの示現で見たことを（1ニーファイ8章参照）、自らも見、聞き、理解することを望みました。第11章から第14章で、聖霊はニーファイに、父リーハイの示現の意味について教えておられます。興味深いことに、これらの章の中で、主の御霊はニーファイに13回も「見なさい」と命じておられます。見ることは、学ぶ過程において基本となります。ニーファイは見るように繰り返し促されました。観察が鋭かったおかげで、ニーファイは命の木（1ニーファ



イ11：8参照）、救い主の母（1ニーファイ11：20参照）、鉄の棒（1ニーファイ11：25参照）、そして神の小羊、すなわち永遠の父なる神の御子（1ニーファイ11：21参照）を見ました。

わたしはニーファイが見た霊的に重要な事柄をほんのわずかだけ述べました。これらの章をもっと深く研究し、ニーファイの経験を通して、ニーファイがどのように学んだか学んでください。研究し、深く考えるときに、もしもニーファイが観察の鋭い人でなければ、ニーファイは見たものも見られず、理解すべきことも理解できず、また、最終的になすべきこともできなかったということに心に留めてください。この真理は皆さんにもわたしにも当てはまります。

観察が鋭いこと。即座に注意を向け、従うこと。この単純な賜物によって、わたしたちは個人的にも家族としても祝福され、ほかの大勢の人々をも祝福することができます。わたしたちは皆、観察が鋭いという、この価値ある霊的な賜物にふさわしくなれるよう努力することができますし、努力するべきなのです。

観察が鋭いことの重要性

さて、この観察が鋭いという霊的な賜物が、皆さんやわたしが現在と将来を生きるこの世にあって、なぜそれほど重要なのかという疑問に答えましょう。簡単に言えば、観察が鋭いことは、霊的な識別の賜物に先立ち、識別の賜物に結びついているからです。皆さんにとってもわたしにとっても、識別の賜物は、暗闇に覆われた今の世にあって、防御の力となり、導きともなります。

信仰が奇跡に先立つように、水のバプテスマが火のバプテスマに先立つように、福音の基本原則が複雑な教義に先立つように、義になかった行いが心の清めに先立つように、アロン神権の儀式がより高度なメルキゼデク神権の儀式に先立つように、観察が鋭いことは識別の賜物を持つ前提条件であり、準備となるのです。観察が鋭ければ、見て従っているならば、識別の賜物やその防御の力を天に願うことができるのです。

4人の大管長の顧問を務めたジョージ・Q・キャノン管長（1827－1901年）は、識別の賜物について力強く教えています。

「主との聖約に入った人々に主が約束された福音の賜物の一つは、霊の識別の賜物です。多くの人々がそれほど価値を認めておらず、恐らくほとんど祈り求めることもない賜物ですが、実は非常に価値があり、すべての末日聖徒が持つべき賜物です。……

さて、霊の識別の賜物を有する男女は、他人の心に入って影響を与える霊を、識別する力が与えられます。さらに、自分自身に影響を与える霊を識別する力も与えられます。この賜物を持つ人は偽りの霊を見抜くことができます。神の御霊がともにあるときにそれを知ることもできます。末日聖徒の私生活において、この賜物は大変重要です。この賜物を持ち、使うなら、どんな邪悪な影響力もその人の心に入り、思いや言葉や行いに影響を与えることはできないでしょう。その人は邪悪な影響力を追い払います。たとえそのような霊が入り込んだとしても、すぐさまその影響に気づいて追い出してしまいます。言い換えればそのような霊に導かれたり促されたりすることを拒むのです。」¹

この霊的な賜物が今日の生活にどれだけ必要か分かりますか。観察が鋭いことによって、識別の賜物をどれほど豊かに祝福されるか分かりますか。

デビッド・O・マッケイ大管長の顧問を務めたスティーブン・L・リチャーズ管長（1879－1959年）は、識別の本質と祝福について次のように教えています。

「まず、識別の賜物について、特に善悪を見分ける力について話します。わたしが信じているのは、この賜物は、印象すなわち霊的な印象に対する鋭い感受性から生じ、もしこの賜物をよく伸ばすなら、表面に表れない事柄を読み取ったり、隠された悪を見抜いたり、さらに重要なことですが、目には見えない善を見いだしたりすることができるようになります。わたしは信じています。識別力を最も高い次元まで伸ばすなら、人の内にある善い性質や内在する美德に気づき、それを明らかにすることができます。……





……回復されたキリストの教会の会員はすべて、望むならこの賜物^{たまもの}を得ることができます。この賜物を持つ人は世の詭弁^{きべん}に欺かれることはありません。また、偽預言者や社会の転覆をたくらむ偽りの宗教に惑わされることもありません。経験の浅い人たちでさえ、少なくともある程度は、偽りの教えを認識することができますでしょう。……わたしたちはこのような感覚を持っていることに毎日感謝すべきです。この感覚のおかげで、善悪の観念が常に働き、罪や悪事を働く人の中にある危険に対して絶えず警戒することができるのです。』²

キャノン管長とリチャーズ管長の教えをまとめると、識別の賜物は基本的にはおもに4つの方法で作用することが分かります。

第1に、「表面に表れない事柄を読み取る」ときに、識別の力によって、他人の隠れた過ちや悪を見抜くことができます。

第2に、もっと重要なことですが、識別の力によって、わたしたち自身の隠れた過ちや悪を見抜くことができます。したがって、霊的な識別の賜物は、人や状況を識別するためだけでなく、キャノン管長が教えたように、わたしたちの内にあるものの真の姿を識別す

るためにもあるのです。

第3に、識別の力により、ほかの人の隠れた善を見だし、明らかにすることができます。

第4に、識別の力により、わたしたち自身の隠れた善を見だし、明らかにすることができます。霊的な識別の賜物は、すばらしい祝福であり、防御と導きの源なのです！

キャノン管長とリチャーズ管長が説いた、隠れた悪を見抜き、表面に表れない善を見いだす識別の力に関する教えは、リーハイの示現の中の一つの要素について考える際に、さらに重要な意味を持ってきます。この示現の中で、様々な人々が命の木へ通じる道にたどり着こうとして、押し進んでいました。細くて狭い道に沿って鉄の棒があり、鉄の棒は木の所まで続いていました。示現の中で述べられている暗黒の霧とは、悪魔の誘惑を表しています。この霧は人の子らの目をくらまし、広い道に踏み込ませて、道に迷わせるのです(1ニーファイ12：17参照)。

さて、ニーファイ第一書第8章23節に特別な注意を払ってください。この聖句を現代に当てはめてください。ますます邪悪になっているこの世の中でわたしたちが出遭う試練に

識 別の力は、
鉄の棒のように、
闇がますます
深くなるこの世の中で、
防御と導きの力
となるのです。
皆さんもわたしも
暗黒の霧の中を
安全に押し進んで
行くことができます。



識別の賜物が
あると、
肉体の目や
耳ではとうてい
見たり聞いたりできない
事柄が見えてきます。

当てはめてみてください。

「そこで、暗黒の霧が起こった。まことに、非常に深い暗黒の霧であったため、道を歩き始めていた人々は道を見失い、迷って姿が見えなくなってしまった。」

もう一度この真理を繰り返し、強調します。識別の力は、闇がますます深くなるこの世の中で、防御と導きの力となるのです。皆さんもわたしも暗黒の霧の中を安全に、そして無事に押し進んで行くことができ、霊的な導きをはっきり認識することができるのです。識別することは、善悪を見分ける以上のことです。識別の力により、適切なものと不適切なもの、重要なものと重要でないもの、必要なものと単に良いものを見分けることができます。

識別の賜物があると、肉体の目や耳ではとうてい見たり聞いたりできない事柄が見えてきます。識別するとは、霊の目で見、心で感じ取ることです。偽りの教えや、人々の隠れた長所を、見抜いたり感じ取ったりすることです。識別するとは、霊の耳で聞き、心で感じ取ることです。口に出して言わない心配事を聞き取ったり、証や教義の真実性を感じ取ったりすることです。

わたしは十二使徒定員会会長代理であるボイド・K・パッカー会長が、教会員や神権指導者に次のように勧告するのを何度も聞いたことがあります。「もし肉体の目や耳で見聞きしたことだけしか知らないなら、多くを知ることはできないでしょう。」パッカー会長の

この言葉は、わたしたち皆がこの霊的な賜物を適切に願い求めるよう励ましてくれます。

観察し識別すれば、細くて狭い道にたどり着こうとしている人や、キリストにあってしっかりと押し進みたいと望んでいる人を助けることもできます。この霊的な賜物を得ていれば、わたしたちは道を見失うこともなく、迷うこともありません。観察が鋭くなりさえすれば、崇高な識別の賜物や、それに付随する守りと導きの力を得ることを願えるのです。アルマが息子ヒラマンに教えたとおりのです。「あなたはこれらの神聖なものを大切にしなさい。神に頼って生きるようにしなさい。」(アルマ37：47)

わたしはイエスがキリストであり、^{あがな}贖い主であり、救い主であることを特別に証します。主が生きておられることを知っています。皆さん一人一人に主の祝福があり、観察が鋭くなり真の識別の力を得ることを望むことができるように祈ります。■

2005年5月10日に行われたブリガム・ヤング大学のデイポーションナルにおける説教より。

注

1. *Gospel Truth: Discourses and Writings of George Q. Cannon*, ジェレルド・L・ニュークイスト編(1987年), 156 - 157
2. Conference Report, 1950年4月, 162 - 163, 強調付加



初めてのクリスマス

エイブラハム・メネス・サグレロ

クリスマスがやって来ましたが、新婚のわたしたちにはクリスマスツリーや飾り、それに豪華な夕食を用意するお金がないことは明らかでした。

わたしたちの新婚生活は、家もなく、仕事もなく、お金もほとんどないところから始まりました。しかし神は助けてくださいました。わたしたちは小さなアパートを見つけ、わたしは仕事を探し始めました。まだ学位を取っていなかったため、様々な販売の仕事に就きました。収入は少なく、食べ物を買う家賃を払うので精いっぱいでした。わたしは朝早く仕事に出かけました。販売がうまくいくこともあれば、そうでないこともありました。うまくいかなかったときにはがっかりして家に戻りましたが、妊娠中の妻は笑顔で迎えてくれました。そんなときは、困難も何とかなるような気がしたものです。

メキシコでは、クリスマス当日にも増してクリスマスイブを盛大に祝います。独身時代には、タラと、ビートやオレンジ、ピーナッツの入ったサラダを食べて祝いました。しかし今年のクリスマスイブにはどのような夕食が食べられるのか分かりません。わたしたちには少しばかりのお金と、借り物のガスボンベを付けた小さなコンロがあるだけでした。居間や台所には、家具も冷蔵庫もありませんでした。ただ祖母がくれた小さな木のテーブルと、友人からもらった一組のいすがあるだけでした。

自分たちの暮らしぶりを思うと気がふさぎました。しかし、神はわたしたちを決してお見捨てにならないという^{おきなご}ことを思い出し、わたしは幼子のようにへりくだって、神に祈りをささげました。

祈りはこたえられました。心は安らぎ、すべてがうまくいくと感じました。車のトランクを開けると、片隅に小さな魚の干物があるのを見つけました。数か月前に父を手伝って魚を運んだことを思い出しました。この干物はきっとそのとき置き忘れたのでしょう。塩分のおかげで悪くはなかったのです。

妻に干物を見せると、調理すると言いました。わたしたちはトマトやそのほかの材料を買いに行きました。そして、魚を洗って水に浸し、塩抜きをしました。

その夜、小さな電球に照らされながら、わたしたちはペンキも塗っていない小さな木のテーブルに向き合って座り、イエス・キリストの誕生を思い起こし、イエスがわたしたちよりもさらに質素な環境でお生まれになったことに思いをはせました。わたしたちはかつて食べたこともないほどのおいしい夕食を楽しみ、その夜は早く床に就きました。翌朝、ベッドに入ったまま、二人でクリスマスの映画を見ました。とても幸せな一日でした。貧しい中にあっても、クリスマスの精神がわたしたちの小さな家庭に明かりをともし、希望と勇気を与えてくれました。

1月には娘が生まれ、さらなる幸福が我が家にもたらされました。

その後、何度もクリスマスがやって来ては去って行きましたが、わたしたちは二度とクリスマスツリーや飾り、それに松の木の香りを欠かすことはありませんでした。夕食として、おいしい料理も食べました。しかし、わたしの最も大切なクリスマスの思い出は、二人で過ごした最初のクリスマスです。この世のものは何もありませんでしたが、霊的な、永遠に続くものに豊かに恵まれていました。それは、わたしたち二人とやがて生まれる娘、そしてクリスマスの精神です。■

質疑応答

「両親が離婚していて、神殿で結び固めを受けることができないので、自分の家族が『真の』末日聖徒の家族ではないような感じがすることがあります。教会の中では疎外されているような気がしてきました。このような気持ちをどうすればよいのでしょうか。」

『リアホナ』からの提案

末日聖徒の家族といっても千差万別です。どの家族にも長所と弱点があります。そして教会ではどの家族も仲間として迎えられるのです。イエス・キリストの福音は、完全な聖徒のためにあるのではなく、聖徒を完全な者にするためにあるのです。以下に紹介する提案は、あなたが苦しみを感じている事柄を乗り越えるのに役立つでしょう。

自分の家族から学び、将来築く家族のために備えをする わたしたちは皆不完全なので、完全な家族を今築くことはできません。しかし自分の家族の良いところや足りない部分から学ぶことはできます。自分が結婚したらどんな家族を持ちたいかを今決めるのです。今日正しい選択をすることによって、永遠の結婚を期待し、そのための準備を始めてください。

福音の教えに従って生活する 家庭を御霊の宿るところにするために、できることは何でもしてください。その一つは両親を敬うことです。たとえ離婚していても、二人が親であることに変わりはありません。両親から命という賜物を与えられたのですから、両親を愛するべきなのです。

福音の教えに従って生きようと努力するな

どの家族にも
試練があります。
そして教会では
どの家族も仲間として
迎えられるのです。

いつの日か
神殿で結婚するという
目標を立ててください。

福音の教えに従って
生活してください。
そうすれば、
福音の祝福をすべて
受けることができます。

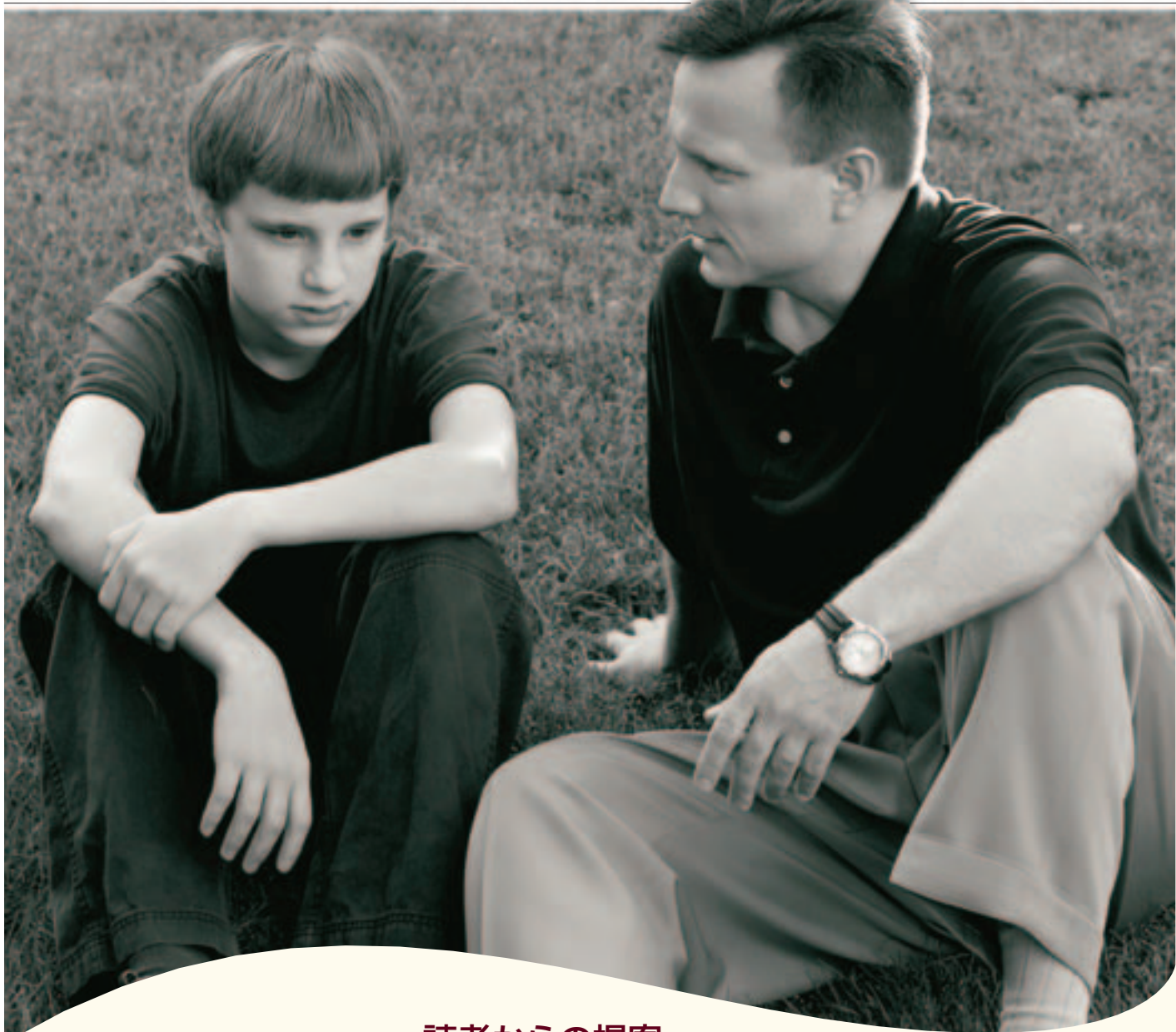
家族から学び、
家族を愛してください。

希望を持って、
試練を通して
主に近づけるように
努力してください。

ら、聖霊を通して慰めを受け、贖いを通して力を受けられるでしょう。救い主の贖いのおかげで、義にかなった生活をするならば、すべての祝福にあずかることができるのです。永遠の家族となる祝福もその一つです。

永遠の未来を決めるのは両親の離婚ではなく、自分自身のふさわしきです。十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老は、次のように説いています。「〔主は〕あなたが受けるにふさわしいすべての祝福を実現してください。落胆しないでください。できるかぎり理想に近い生活を送るならば、あなたを取り巻く現在の環境がどのようなものであっても、多くの幸せと満足とを得、目を見張るような成長を遂げることができます。」「第一のものを第一に」『リアホナ』2001年7月号、7)

望みを持つ 家族に問題があるとつい悲しくなってしまうものです。しかし次の点を忘れないでください。どんな試練でもそうですが、現在受けている試練を通して、大切な教訓を学び、霊的にも情緒的にも成長できます。将来自分の子供が永遠の家族という祝福にあずかる日が来るように祈り、計画を立てるならば、心に希望がわいてくることでしょう。



読者からの提案

主はわたしたちの益となるように家族という単位を設けられました。家族を通してわたしたちは強められ、導きを受けます。自分の家族を愛し、感謝することを学んでください。主はあなたの家族を愛していらっしゃいます。あなたの家族が遭う試練や、持っている賜物は、ほかの家族にはないものです。数々の試練に遭い、賜物を使う経験から、あなたは多くの事柄を学ぶことになり、そこから、現世だけでなく永遠にわたって益を受けるでしょう。



わたしの両親は何年か離婚していましたが、もう一度結婚したのでうれしく思いました。けれども二人が別れていたときは、わたしもあなたが質問に書いているのと同じような気持ちを感じていました。それで力と慰めが受けられるように天の御父に祈りました。この経験を通してわたしは、天の御父に心を向け、御父を信頼するようになりました。御父は何がいちばん良いかを御存じだからです。また困ったことや分からないことがあるときに、それをありのままに祈れるようにもなりました。

そして祈った後に聖典を読みました。自分に必要な答えがある聖句に巡り合うかもしれないからです。疎外感を感じる時には、導きを得るために聖典を読み、祈ってみてください。

アメリカ、アリゾナ州
マリ－・P、13歳



両親が別居していたとき、わたしも同じ気持ちを味わいましたが、克服することができました。どんなことがあってもイエスがそばにいて、慰めを与えてくださると考えてく

ださい。いつでもイエスはそこにいて、正しい道に導き、愛されていることを実感させてください。このことを感じると、教会員であることはすばらしいと感じるようになるでしょう。天の御父とイエス・キリストが自分にどのような人になってほしいとっておられるかを考えてください。そうすると、強くなることができます。

フィリピン

ロバート・S, 15歳



教会の指導者や友達に助けをもらうことは、そういう気持ちに対処する方法の一つだと思います。指導者には霊的な面で助けを受けることができ、友達には、これで何もかもが終わるのではなく、むしろ家族が今よりも一致するための一つのきっかけにすることができるように手助けをしてもらえるでしょう。偶然に起こるものは何もなくて、人生ですべてのことには目的があり、神が永遠にわたって愛してくださることを知ると、気持ちが楽になります。

ブラジル

フアン・B, 17歳

家族や両親がどんな試練に直面していても、自分の行いに対しては責任を問われても、両親の行いに対しては自分が責任を問われるのではないことを覚えていてください。いつか神殿で結婚できると強く信じて、元気を出してください。見捨てられたような気持ちを持つ代わりに、真の教会の会員であることに誇りを持ってください。どうしても一人ぼっちであると感じるようであれば、教義と聖約第68章6節を読んでください。

アメリカ、メリーランド州

ジュディス・O, 14歳



家族が神殿で結び固められているかどうかにかかわらず、両親の離婚のことで落胆したり、教会の中で自分だけ部外者のようだと感じたりしないでください。最も大切なことは、自分自身が信仰を守り続け、両親の離婚の原因になったことを自分がしないようにすることです。そうすれば自分は聖なる神殿で結び固められることができます。

ナイジェリア

アレクサンダー・H, 20歳



離婚を経験された方へ——

結婚や人生に対して、失望や挫折感からすべてを悪い方へ考えることのないようにしてください。結婚不信に陥ったり、憎悪のために心の病を長引かせて、あなた自身やあなたが愛している人、また過去に愛した人の人生を台なしにしたりすることがないように気をつけてください。……

神の祝福があって、わたしたち一人一人が、末日聖徒という名にふさわしく互いに接することができますように。わたしたちの中に、自分を「異邦人」や「宿り人」と感じてしまう人がなく、逆に「聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである」と皆が感じられるように願っています(エペソ2:19)。

ハワード・W・ハンター大管長
(1907-1995年)
「あらゆる人々のための教会」
「聖徒の道」1990年8月号、
45参照

両親の離婚という環境の中でわたしは育ちました。父は別の支部に集い、母は仕事の都合で教会に出席できなかったため、わたしは姉と二人きりで教会に通っていました。簡単なことではなく、それにおかしな感じもしましたが、それでも教会に通い続けました。証を強く持ち、戒めを守って生活するならば、人生は祝福されるでしょう。また祈り、御霊がいつも心に宿るように努めるならば、この世で試練を克服することができるでしょう。そして最後には、報われるでしょう。

アメリカ、ネバダ州

ジェス・D, 18歳



教会の中に居場所がないという気持ちは、神に属するものではありません。なぜなら神の教会は、神を信じる神のすべての子供のためにあるものであり、その人たちがどんな境遇にあるかは関係ありません。教会ではすべての人が受け入れられており、したがってだれかがのけ者になるということはありません。このような家族の状況に直面するのは簡単ではありませんが、福音があればどんな状況に立ち向かうときでも常に希望を持ち、前向きな見方をすることができます。ですから、今すぐ価値ある目標を設定し、自分自身の家族を築くときには永遠のきずなを結べるように、自分自身の備えを始めてください。

メキシコ

イスチエル・C, 23歳

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

質問

「自分が確かに福音の教えに忠実に従っているという証を強めるには、どうすればよいのでしょうか。」

あなたの意見を聞かせてください

氏名、生年月日、住所、ワードおよびステーク(または支部および地方部)を明記のうえ、写真を添えて(写真掲載に対するご両親の許可証とともに)、下記まで郵送か電子メールでお送りください。

あて先—— Questions & Answers 1/07

50 E. North Temple St., Rm. 2420

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メールアドレス——

liahona@ldschurch.org

2007年1月15日必着で送付してください。■

扶助協会に所属する祝福



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証^{あかし}を伝え、あなたが教える人々にも、同様に分かち合うように勧めてください。

扶助協会によって、どのようにイエス・キリストとのきずなを強めることができますか。

元中央扶助協会会長第一顧問 サラ・クリーブランド——「わたしたちは主の御名において行動しようと努めています。困っている人の必要を満たし、何であれ善いことをするのは……。主の御名においてこの業を始めた以上、大胆に前進しましょう。」（『扶助協会議事録』末日聖徒イエス・キリスト教会記録保管課，1842年3月17日，12；1842年3月30日，24）

中央扶助協会会長第一顧問 キャスリーン・H・ヒューズ——「わたしたちはどのような状況にあっても、祝福された女性です。主の業を行うと、天の御父と聖約しました。そしてまさにそのとおりに行っています。マリヤとマルタのように、主の足もとに座り、『良い方を選んだ』のです〔ルカ10：42参照〕。キリストを選び、扶助協会を選んだのです。……〔マリヤとマルタ〕をはじめ、キリストの弟子であった忠実な女性は皆、ともに集い、王国を築くうえでの自分たちの役割を学んでいたと想像して

みると、うれしくなります。皆わたしたちと同じく、聖約の女性でした。キリストに心を尽くして仕えたと決意していました。扶助協会が組織されたときも、仕え合い、愛し合い、助け合うという女性の天与の召しと望みから、扶助協会は発展していきました。」（『主との聖約』『リアホナ』2003年11月号，108）

欽定訳ピリピ4：13——「わたしを強くして下さるキリストによって、何事でもすることが出来る。」

扶助協会によって、自分や家族はどのように祝福を受けられるでしょうか。

十二使徒定員会会長代理 ポイド・K・パッカー会長——「扶助協会は、母親が娘を育て、夫や兄弟の礼儀や勇気を啓発できるように、指針を与えます。……家庭や家族の守りは、妻や母親、娘が扶助協会に所属するときに、大いに強化されます。……強固な扶助協会は、母親と娘、独りで子供を育てている親や独身の姉妹、お年寄り、病弱な人に力強い守りと癒しをもたらします。……〔扶助協会と神権定員会〕には家族を永遠に守るという最高の目標があります。」（『扶助協会』『聖徒の道』1998年7月号，77－79参照）

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

——「神が末日聖徒イエス・キリスト教会の扶助協会を祝福されますように。1世紀半以上の間、扶助協会の姉妹を突き動かしてきた愛の精神がこれからもはぐくまれ、世界がそれに気づきますように。姉妹たちの慈悲深い行いが世界のどこであれ、数知れぬ人々の人生に良い影響を与えますように。神が組織されたこの比類ない組織により、光と理解、知恵と知識、永遠の真理が、将来幾世代にもわたって、あらゆる国々の女性たちにもたらされ、生活が祝福されますように。姉妹一人一人が『この大いなる業を成し遂げるために、神の御手に使われる者』となることの、大いなる責任と祝福を理解できますように。」（アルマ26：3）（『ビデオ『神の御手に使われる者』』『リアホナ』2005年11月号，106）■





七十人
リン・A・ミケルセン長老

祈りに対する
それまでの
いいかげんな態度は、
キャンプの夜に
変わりました。
寝袋に
飛び込んだわたしは、
友人が
寝袋の上にひざまずいて
祈っている姿を
見たのです。
友人は祈り終わると、
こう言いました。
「リン、祈らないのかい？」

毎年この季節になると、救い主とジョセフ・スミスについて考えます。わたしは、主とジョセフ・スミスについて聖文から読むのが大好きです。10代のころにもらったクリスマスプレゼントの中でいちばん大切なプレゼントは、モルモン書と教義と聖約と高価な真珠が1冊になった合本でした。カバーは革製で、最初のページには父の手書きのメッセージがありました。けれども、そのプレゼントを受け取ったときには、その価値に気づきませんでした。実を言うと、クリスマスプレゼントが聖典だなんて、がっかりでした。

しかし、時がたつにつれて、その合本はわたしにとってとても大切なものとなってきました。その合本を見れば、10代のころに救い主とその生涯について何を学んだかを思い出すことができます。伝道にもその合本を携えて行きました。また、ビショップのときにもその合本を愛用しました。次第に、その合本はわたしにとって、とても大切な財産となってきました。最初に付いていた革のカバーは擦り切れたので、しばらく前にカバーだけ新しく付け替えました。

聖句の中で最も大切なのは、個人の証あかしが記された箇所だと思います。例えばジョセフ・スミスの証がそうです。わたしは彼の証を初めて読んだときから今まで、ジョセフ・スミスが聖なる森で見たと述べている光景を彼が実際に見たということについて、一度も疑ったことはありません。

ジョセフが祈りをささげたこと、そしてあの神聖な「最初の示現」を経験したことに感謝しています。わたしたちは常に示現を見たり、ジョセフが受けたような力強い答えを受けたりするわけではありませんが、心に浮かぶ考え、問いかけに対する答え、決断に対する確認といった形で、ちょうどジョセフと同じように明快な答えを得ることができるのです。

祈りの模範

ジョセフ・スミスが祈る必要があると感じたように、わたしも祈る必要性を痛感したことがあります。幼いころは、毎晩寝る前に祈っていました。けれども、10代に入ると、信じていないわけではありませんが、時間を取って祈らなくなっていました。そんなわたしが、ある日を境に祈るようになったのです。

何人かの若い男性とキャンプに行ったときのことです。仲の良い友人と同じテントで寝ることになりました。寝袋に飛び込んだわたしは、その友人が寝袋の上でひざまずき、祈っている姿を見たのです。友人は寝袋に入ると、こう言いました。「リン、祈らないのかい？」

「ああ、あまりね。」そう答えました。でも、そのときわたしは、もうだれからも同じようなことを聞かれないようにしようと、心の中で誓ったのです。

「祈らないのかい？」

ジョセフ・スミスは、祈るために独りになれる場所へ行きました。わたしもその気持ちが分かります。あのキャンプから何年かした後、わたしはまたキャンプに出かけました。今回同じテントになったのは、あまり知らない若い男性でした。彼の目の前で祈るのにためらいを感じたわたしは、彼が寝てから祈ることにしました。ひざまずいて祈る姿を見られたいなかったのです。

でも、彼はなかなか寝ませんでした。とうとうわたしはひざまずいて祈り、寝袋に入りました。彼は数分後に寝袋に入ると、こう尋ねました。「リン、いつもひざまずいて祈るのかい？」

「ああ、なるべくね。祈りを忘れてベッドに入ったときも、もう一度ベッドから出てひざまずいて祈るようにしているよ。」
「ほくもそうしよう」と彼は答えました。

救い主を知る

預言者ジョセフが勇気と信仰をもって祈り求めたことに心から感謝しています。また、ジョセフが祈りの答えとして知らされたことを信じる備えができていたことにも感謝しています。わたしは預言者ジョセフ・スミスが大好きです。

ジョセフ・スミスの示現を通して、わたしも救い主を必要としていることが分かりました。わたしは以前にもイエス・キリストについて、また、主が神の御子であられることについて知っていました。けれども、^{あがな}贖いの効力について知れば知るほど、救い主に対する愛と証が強まりました。救い主の贖いを通してのみ、わたしたちの罪は赦されるのです。人は悔い改めることができます。でも、悔い改めという行為そのものが人を赦すわけではありません。悔い改めは、救い主から赦しを頂くふさわしさを与えてくれるだけなのです。

わたしたちは、自分が何者であるかについて証を持つ必要があります。自分が天の御父の霊の子供であることを知る必要があります。そのことを知ったとき、わたしたちは御父の愛を感じます。御父が天でわたしたちとともに暮らすことを切に望んでおられることが分かります。心から悔い改め、御父から罪を赦されるなら、わたしたちは清くなることができます。わたしたちは新たに生まれ変わり、あたかも罪を一度も犯したことがなかったかのようになるのです。そのことを理解するときに、主をもっと知るようになるのです。■



時計と ボタンと ジョセフのマント



教会歴史美術博物館の
最近の展覧会での展示物を通して、
ジョセフ・スミスの日常の生活を
かいま見ることができます。

サリー・オデカーク
教会機関誌

金の時計、マント、さびた農具、そして昔使われていた石筆。この品々は19世紀においてはありふれた品々ですが、大切な意味があります。ジョセフ・スミスが毎日の生活の中で使っていた物だからです。

ジョセフが生きていた時代から200年が経過しようとしています。預言者が生活の中で使っていた品々を見ると、預言者をもっと理解できるようになるでしょう。ユタ州シーダーヒルズに住む13歳のマッケンジー・ヘッドは、教会歴史美術博物館を訪れて展示物を見ました。マッケンジーはこう書いています。預言者ジョセフが生きているときに使った品々が残っているのを見ると、「預言者の生活の様子や、そのころの物と今の物では大きな違いがあることについて、もっとよく分かりました。それに、実際に預言者が使った物がたくさん残っていることにもびっくりしました。ジョセフに対する証はとて^{あかし}も強くなりました。」

以下は教会博物館の展示物や所蔵品の写真です。
写真の説明文は博物館館長のマーク・ステーカーによって書かれました。

左——博物館の展覧会で展示された金版の複製。
三人の証人の一人であるマーティン・ハリスは、
金版は銀の輪を三つ使って留めてあるので、
本のように開くことができると語った。

下——ここにあるボタンと留め金は
ニューヨーク州パルマイラのスミス家の
丸太の家があった場所で考古学調査中に発見された。

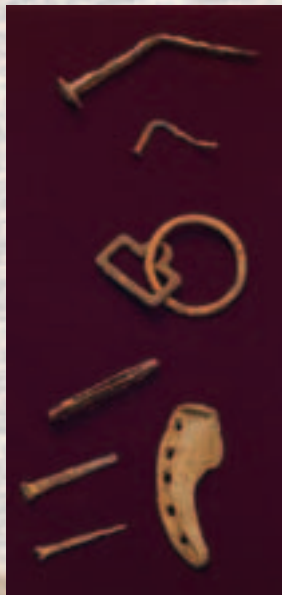


上——シャツに見せかけた
前部分。1841年に
ルーシー・マック・スミス
が息子ジョセフに作ったもの。
胸当てとして知られている、流行
した男性用衣服の一部で、一般的には、
ボタンや縫い目を隠したり装飾を加え
たりする目的で着用された。

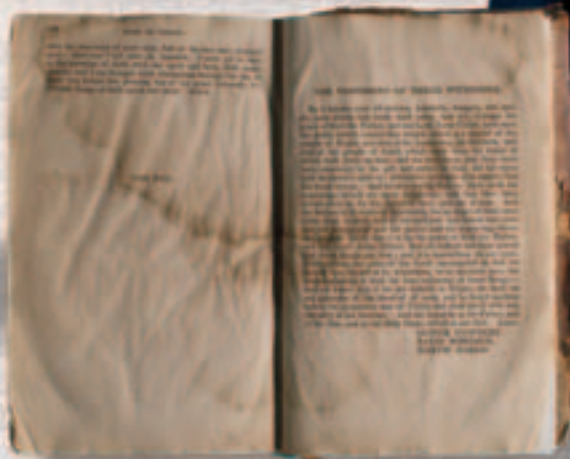
左——ジョセフ・スミス所有の金
時計。弁護士の支払いに当て
るために譲渡された。

上——1805年ごろに作られたゆりかご。
ジョセフ・スミス家では
これに似たものを使っていた。

右——ジョセフ・スミスの丸太の家が
あった場所で発見された釘と蹄鉄。
金属の輪は、
大きな鎌の長い柄に付いていたもの。
ジョセフ・スミスは子供のころ、
大きな鎌を使って穀物を刈った。
下——ノーブー神殿の石の一部。



下——これに
似た松葉杖を、
ジョセフは
足の手術からの
回復時に使用した。



左端——石筆。両親が家でジョセフ・スミスに読み書きや
算数の問題の解き方を教えるために使用したものと思われる。
上——ジョセフ・スミスがマーティン・ハリスに贈った、
初版のモルモン書。三人の証人の証のページが開かれている。
右——ノーブー部隊の中将として預言者が着用したマント。



回復の

おかげで……



マンディ・アンドレ

「回復する」という単語を辞書で引くと「失われていたものの存在を復活させる、または……以前のあるいは元々の状態に戻す」と出ています (Merriam-Webster's Collegiate Dictionary, 第11版〔2003年〕, 1063)。聖書の中でたくさんの預言者が、救い主の再臨に先立って最後となる福音の回復を神が末日に行われると約束しました。そして1820年に、神は預言者ジョセフ・スミスを通して福音の回復を開始されたのです。

ある日わたしは、回復が毎日の生活にどのように影響しているのかを思い巡らし始めました。次に挙げるのは、ある1週間にわたしが回復を通して受けた恩恵です。

先週の日曜日、父から神権の祝福を受けました。回復のおかげで、イエス・キリストの御名によって行動する権能が父に与えられていることを知っています。父は、わたしが病気や特別な助けを必要とするときにはいつでも、祝福を施すことができます。

月曜日、起きて祈りをささげてから、学校に行きました。回復のおかげで、愛にあふれた天の御父に祈っていることを知っていました。そして自分が神の娘であって、神の形に創造されているという知識があります。モルモン書も読みました。回復のおかげで、イエス・キリストが実際に生きていらっしゃったことについてもう一つの証が与えられています。その夜は、家庭の夕べをしました。回復のおかげで、わたしには恵まれて真理を教えてくれる愛情あふれる両親がいます。

火曜日、初めて神殿に入って死者のための身代わりのバプテスマを受けました。回復のおかげで、福音を聞かずに亡くなった人々が永遠の祝福を受ける手伝いをすることができました。

水曜日、洋服掛けで慎重な服を選びました。回復のおかげで、わたしは自分の体が神聖であり、わたしを見る人にとって良い模範になる必要があることを知っています。また、生ける預言者と十二使徒から導きを受けており、さらには『若人の強さのために』が与えられていて、そこにある指針に従うと義になかった選択ができます。

木曜日、福音に従った生活ができるように最善の努力をしました。回復のおかげで、わたしには聖霊の賜物が与えられていて、いつも聖霊を伴いとして、

助けを受けています。またビショップや若い女性の指導者が、特別な助言者として見守ってくれています。また回復のおかげで贖いについての知識があり、間違ったことをしたときには悔い改めをして赦しを得ることができます。

金曜日、友達と楽しい時間を過ごしました。回復のおかげで、自分以外にも、福音に従った生活をしたと願っている友達がいます。良い友達はわたしの人生の中で大きな祝福となっています。また教会員ではない友達には福音を伝える機会もあります。**土曜日**、ブラジルで伝道している兄のタイラーについて考えました。会えないのはとても寂しいけれど、回復のおかげで、兄が正しいことをしているという確信があります。わたしもいつか伝道に行きたいと思います。

今日はまた日曜日です。回復のおかげで、わたしは聖餐を取り、イエス・キリストに従う約束を新たにしました。そして自分が神の娘で、いつかみもとに戻れるように神の計画が回復されたことを思い起こしました。

回復のおかげで、聖文が真実であることを知っています。この教会は回復されたイエス・キリストの教会です。今日、生ける預言者に導かれています。回復された神殿の儀式を通してわたしの家族が永遠に一緒にいられることを知っています。

回復のおかげで、わたしたちは1週間毎日、そして生きている間ずっと祝福を受けているのです。■

左—ブリガム・ヤング、第3ワドの建物のステンドグラス窓の真実 / フォト: J. ヒューストン。右—写真: ショーン・ルーク、マシュー・ライアー、クリスティーナ・スミス、写真はイメーシ



チャレンジに こたえて

1年前、世界中の教会員が、2005年8月に出されたゴードン・B・ヒンクレー大管長のチャレンジにこたえて、モルモン書を読破しました。チャレンジにこたえた会員たちからは、教会機関誌にあてて、証や体験談や感謝の言葉をつづった手紙が普段では考えられないほど大量に寄せられました。以下にその一部を紹介します。

チャレンジにどうこたえたか

「この教会の民は何か驚くべきことを経験したはずです。皆さんは、バスに乗っているときや、昼食のとき、病院の待合室や、そのほかのいろいろな場所で、モルモン書を読んでいます。この書物を読んだことで、皆さんがさらに神に近づいたことを確信し、またそう願っています。」(ゴードン・B・ヒンクレー「神の王国を求めなさい」『リアホナ』2006年5月号, 82)

毎晩7時に。妻と二人の娘とわたしは、毎晩7時になると一緒にモルモン書を読みました。その時間帯にたまたまだれかが訪ねて来たりしたら、その人も誘って一緒に読んでもらいました。読むこと自体が大きな祝福でした。でも、二人の娘たち(12歳と13歳)は、読む能力まで向上させたのです。そしてわたしたち家族全員が、優先順位をつけること、自分を律すること、そして時間を有効に使うことを学びました。秩序の家を持つことについても、今まで以上に理解が深まりました。そして、家族として、家庭の愛や一致が深まったと実感しています。タイ、パケット、B・アカニット・サブラセルト

天に近づく。わたしは飛行機のフライト・アテンダント(客室乗務員)をしています。乗客席の通路を歩きながら、何人

かがモルモン書を読んでいる光景を目にすると、鼓舞されます。すべての乗客の接待を終えると、わたしは時間を見つけて、1章か2章を読むように努めました。また、その日学んだことを少なくとも一つは書き留めておくように心がけました。普通は早朝のフライトで働きますから、飛行機が飛び立って、モルモン書を読み始めるころに、ようやく太陽が顔をのぞかせます。天に近づいているのを実感しながらモルモン書を読んでいると、特別なものを感じました。アメリカ合衆国ユタ州ファーミントン、エミリー・ブライアン・アーネル

オーディオ聖典。職場への往復の時間は、車を運転しながら、カーラジオでニュースか評論を聞くことにしています。しかし、2005年の最後の4か月間は、CD版のモルモン書を聞いていました。そして、2005年12月29日には、モロナイ書の最後の章を、自宅のオフィスで聴き終えました。このすばらしい経験をして以来、モルモン書を愛する気持ちは以前にも増して強まりました。カリフォルニア州ロサンゼルス、アルツロ・マルドナード

ペンキ缶と略奪。時間に追われる生活で、毎日読むということは、大変なことでした。でもわたしたち家族は、どんなことがあろうと読もうという決意をしたのです。ところがそのために、思いも寄らないような所で読むことになってしまいました。家の外壁のペンキを塗っているときは、ペンキ缶に座って読んでいましたし、裏庭でバーベキューコンロを囲みながらということもありました。時々、4歳の息子がちゃんと聞いているのか、心配になることがありました。ところが、ある日、どうして部屋を散らかしたままにするのか尋ねたとき、息子はこう答えたのです。「だれかがリヤクダツしているんだよ。(訳注——「略奪」は英文原稿では“Plundering”で、モルモ



ン書中、しばしば使われている。4歳の子供が普通なら用いない言葉)」アメリカ合衆国ユタ州ウェストポイント、バクストン家族

絵を完成させる。夫とわたし、それに3人の子供たちは、それぞれ個人的にモルモン書を読むことにしようと決意しました。そこで、モルモン書を持つ古代の預言者の絵を、5つに切り分け、一人が一つずつ持つことにしました。家族一人一人が、責任を持って読破して、絵を元通りに完成させることにしたのです。末の息子はまだ文字が読めません。そこで、わたしと一緒に『モルモン書ものがたり』を読んであげることにしました。

一人また一人と読み終え、順に、まだチャレンジに立ち向かっている家族のために祈るようになりました。こうして、その年の終わりまでに全員が読み終えました。わたしたちは、生ける預言者に従うことで、古代の預言者たちの言葉を大切にしていることを示したのです。ブラジル、サンカルロス、シナラ・リリアン・レアーオ・マチャド

声に出して読む。わたしは、隣の小さな家に住む91歳の友人のために、声に出してモルモン書を読みました。読み進めながら、何度も中

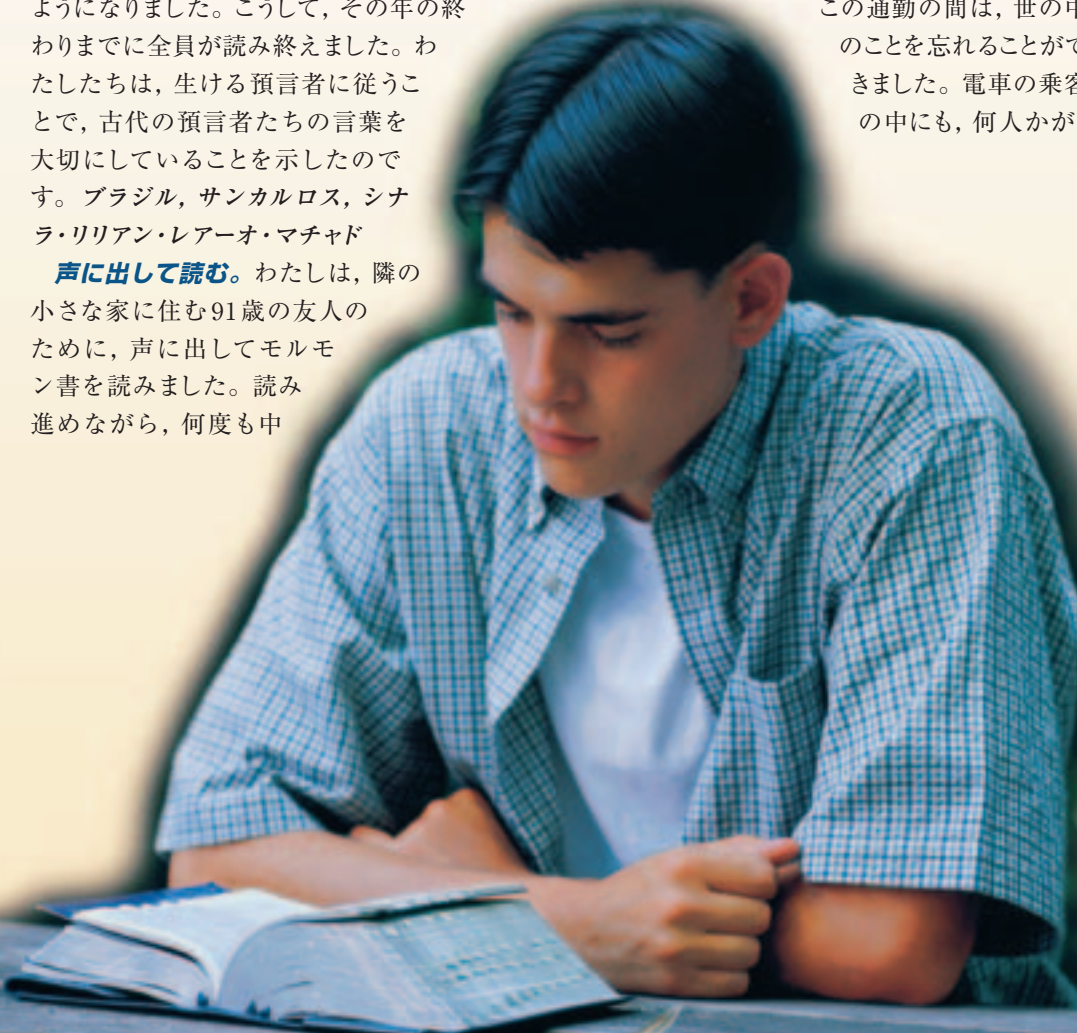
断して、その教えを自分たちの生活にどう当てはめられるか、話し合いました。そのような機会は、人生で最も感動的な経験の一つとして、長く記憶にとどまることでしょう。御霊を非常に強く感じて、涙を流すこともありました。わたしは、このチャレンジを下さった、聡明で靈感に満ちた預言者に感謝しています。アメリカ合衆国ノースカロライナ州ハンプステッド、シルビア・ウィリス

モルモン書通勤。わたしはフィアンセと一緒にモルモン書を読んでいましたが、そのペースはひどく遅いものでした。そこへこのチャレンジが来たのです。わたしたちは熱心にこのチャレンジにこたえるようになりました。二人とも電車で通勤していますが、この通勤の間は、世の中のことを忘れることができました。電車の乗客の中にも、何人かが、



「これまでに
何度読んだかに
関係なく、
皆さん一人一人が
この簡単なチャレンジ
〔年末までに
モルモン書を読む、
あるいは再読すること〕
を実行するなら、
皆さんの家庭や
生活の中に、
さらに豊かに
主の御霊が
注がれるよう
なるでしょう。
そして、
主の戒めに従って
歩もうとする
決意が強められ、
神の御子が確かに
生きておられることが
さらにはっきりと
分かるよう
なることでしょう。」

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長
「力強い、真実の証」
『リアホナ』2005年8月号、6



わたしたちの生活にもたらされたもの

「昨年わたしは、全世界の教会員に、モルモン書を再度読み直すようお願いしました。何千の、いいえ、何十万人の人々が、このチャレンジにこたえてくれました。1841年に預言者ジョセフはこう語っています。『わたしは兄弟たちに言った。モルモン書はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。』」(『リアホナ』2006年5月号, 82)

時間の賜物。^{たまもの}このチャレンジについて読んだとき、わたしはすぐに心の中で言い訳を考えました。自分は忙しすぎるから無理だ、と。その後、何とか読み始めたときでも、もし読み終えなかったら、いつもと同じように、忙しすぎたんだと言えればいいと考えていました。ところが、驚くようなことが起きました。モルモン書を読む日は、まるで時間が止まったように感じたのです。そして、すべて予定どおりの仕事をその日のうちに終えることができたのです。この祝福は、わたしの多忙な生活にとって、まるで癒しでした。自分の家族や教会の召しのための時間もこれまで以上に設けることができましたし、仕事の面でも必要なことはすべて終えることができたのです。もし自分が天の御父を第一にすれば、天の御父は必要なものをすべて備えてくださいます。そのことが、はっきりと分かりました。アメリカ合衆国ユタ州ニブレー、ジュリー・メイジャー

平安と救い。^{やすみ}2005年のまだ年明けのころ、夫は二人の人を車に乗せてあげたことがありました。ところが、帰宅して車の中を見ると、夫のサベル(農業用のなた)がなくなっていたのです。夫は、このことにひどく傷つきました。人助けをしてあげたつもりなのに、これがその報いなのかという気持ちだったのです。この出来事で心を痛めた夫は、平安を見失うほど落ち込んでいました。

それから数か月後のことです。ある朝目覚めたわたしたちは、我が家が泥棒に入られたことに気づきました。恐ろしいことに、泥棒はわたしたちや子供たちが眠っている部屋の中にまで侵入していたのです。取り乱したわたしはこう考えました。「もし夫が怒ってナイフでも取り出していたら、今ごろは泥棒を散々な目に遭わせていたはずだわ。」しかし、夫は平常心を保ち続け、それが家族全体にまで及びました。夫は、家族がだれも危害を受けなかったことに感謝しただけでなく、「家財を奪って行った人々が、それで生活を改善できればいいのだが」とまで言うのです。

わたしは夫の変わりように言葉が出ませんでした。わたしはなぜ同じような平安を感じることはできなかったのでしょうか。そして、わたしは気づいたのです。わたしが『時間がない』と言ってモルモン書を読み出すことすらしなかったときに、夫は固く決意をしてモルモン書を読み続けていたのです。サモア、ベセガ、キャスリーン・アーブ



チャレンジにこたえて、 ヒンクレー大管長の言った「何か驚くべきこと」を経験した ユタ州セントジョージの若い女性たち。

わたしたちのしていることに関心を寄せてくれましたので、そういう人には自分の証を伝え、パス・アロング・カードを渡しました。モルモン書がわたしたちの生活をより良いものに変えてくれると確信しています。ブラジル、サンパウロ、ルシアナ・マーティンズ

自分流のモルモン書を作る。これまで何度もモルモン書を読んでいたわたしは、今度は、これまでとは何か違った方法で読もうと思いました。モルモン書全文はすでにパソコンにダウンロードしてあって、テーマに従って、聖句を色分けしてありました。その作業を改めてやってみることにしました。自分にとって重要だと思われる教義を説明している聖句は太字体で強調し、歴史的なことやそのほかのことで興味を引かれる聖句は斜字体で強調しました。また、役に立つ解説を述べた注釈や参照聖句も挿入するようにしました。

これらのことを続けていくうちに様々な考えがわいてきたので、それも注釈という形で挿入していきました。数か月間これを続けると、注釈も増えていきます。その注釈の大半は、自分の家族やわたし自身の生活、また教会の責任にも応用できるものでした。モルモン書に関する書物はたくさんあります。しかし、この注釈を挿入していったおかげで、わたしはモルモン書を自分の書物にすることができました。出来上がったものを印刷してみると、自分や家族の必要に合った、自分たちのモルモン書になっていました。アメリカ合衆国、ユタ州パウンティフル、ジョン・M・テラー

何か驚くべきこと — 祝福についての証

さらに豊かに主の御霊が注がれる

導きが必要なとき、聖霊を身近に感じました。そのため、助言を求めて天の御父に心を向けることが容易にできました。そして、機会さえあれば、以前よりもっと自信をもって福音を分かち合えるようになりました。フランス、ディジョン、サラ・ベルティエル

わたしは毎朝、聖霊が伴侶^{ほんりよ}となって、わたしの心に導きを与えてくださるよう祈りました。すると、奇跡が起きました。モルモン書がわたしに、福音の真理を再び明らかにしてくれたのです。長年抱えてきた疑問への答えも与えられました。ウクライナ、クリム、タチヤナ・ビシエミルスカヤ

わたしは一日中、御霊をそれまで以上に感じられるようになりました。心の中が穏やかになり、それが家族との関係にまで影響を及ぼしました。メキシコ、リオン、リビア・ズリーマ・ルナ・デルビオ

主の戒めに従って歩もうとする決意が強められる

霊的な強さという祝福が驚くほど与えられたおかげで、自分の弱点を克服するという点で大きく成長することができました。その祝福があまりに大きく、また自分を謙遜^{けんそん}にさせるものだったので、一日の始まりや終わりを聖文とともに過ごす以上に良い過ごし方はないということがよく分かりました。アメリカ合衆国ユタ州シラキュース、マイケル・B・クラーク

わたしたちにとって祝福となったのは、定期的な家庭の夕べ、朝晩の祈り、そしてもちろん聖文研究をしたいという望みが強まったことです。聖文の研究をすることで、わたしは絶えず御霊の実を味わいたいと思うようになりました。アメリカ合衆国アイダホ州アイダホフォールズ、レスリー・クイン

わたしの一日は、本に印刷された言葉を読むことから始まり、その言葉に

ついて深く考え、毎日その言葉を語り、その言葉に従って生活し、その言葉を心に書き留め、そして最後には、その言葉を永遠にわたしの魂の一部にしようとするので過ぎていきました。アメリカ合衆国カリフォルニア州サンバーナーディノ、C・E・タピイ・ローム・ジュニア

神の御子が確かに生きておられることに対するより強い証

毎日時間をかけて学習したため、聖句と聖句を関連づけて考えることができるようになりました。これは、以前にはできなかったことです。モルモン書はほんとうにイエス・キリストについての証に満ちています。御霊を感じられたおかげで、贖い主^{あがな}についての証も深まりました。ドイツ、ハンブルク、ダグマル・レイ

イエス・キリストについてのもう一つの証であるモルモン書を読むことによって、わたしは、自分が神の前に立つときに弁護者となってくださる御方に關する知識も深めることができました。わたしは、その御方の回復された福音を見いだせたことに感謝しています。アルゼンチン、ローソン、ホレイシオ・ケミン

第三ニーファイに差しかかったころには、自分が今まで以上に頻繁にイエス・キリストについて考えていることに気づいていました。また、自分が読んでいるものや、行っていることに対して、救い主がどのような気持ちを抱いておられるかについて、考えるようになったのです。救い主に対する思いは、賜物^{たまもの}としてもたらされました。そして、自分でも、どうしたら「いつも御子を覚え」られるのか、分かってきました。アメリカ合衆国ユタ州オグデン、アリス・M・ジョン



永遠の家族。わたしたち家族は改宗者です。2000年にバプテスマを受けた父は、それから何度か神殿準備クラスに出席したのですが、神殿に入ろうと思うほど積極的な気持ちにはなれずにいました。そんなとき、わたしたち家族は、モルモン書を読むようにというヒンクレイ大管長のチャレンジを受け入れることにしたのです。そのことは、わたしたちが神殿の祝福を受けるための霊的な備えになりました。わたしは心からそう信じています。10月になると、一人の高等評議員が訪ねて来ました。そして、父に、エンダウメントを受けて家族の結び固めが受けられるよう、目標の日を決める必要があると、一步も譲らない様子で、しかし、うれしそうに、説明していったのです。父はその要請を受け入れました。そして、そのときからすべてのことがスムーズに進み始めました。父は10月末に神殿に入り、わたしたちは11月19日に結び固めを受けました。わたしたちは神殿に入れる日を何年も待ち望んできましたが、なかなかその願いはかないませんでした。ところが、モルモン書を熱心に読み進めるうちに、主が道を備えてくださり、わたしたちが主の宮に入り、永遠の結び固めを受けられるようにして下さったのです。アメリカ合衆国ユタ州サンディー、ダニール・クレイン

小さく簡潔なこと。わたしはチャレンジを受け入れました。大きな奇跡が起きたわけではありませんが、小さく簡潔なことを経験しました。それは、難しい状況にあっても、聖霊の穏やかな導きを感じられるようになったということです。アメリカ合衆国ユタ州リバートン、マーク・ベイダー

ほんとうにわたしたちのためなのか。正直に言えば、わたしはヒンクレイ大管長がまだ読んでいない人を対象に話しかけているものだと思っていました。実際、わたしたちは夜になれば聖文を勉強し、家庭の夕べを開き、家族会議も開いていました。一緒に祈ることもしていました。これまでと同様に、1日に数節ずつ読み続けなければいけなかったと思っています。

それから数日後、わたしは気づいたのです。「主の預言者が年末までにモルモン書を読み終えるように求めておられるのだ。わたしはそれを無視しようとしているのではないかと。その晩、わたしたちは家族で集まりました。そのとき家族の皆は、目標の達成に向かって「やってみようよ」という決意の声を口々に言ってくれました。わたしはそのことに、ほんとうに驚きました。子供たちに、休みの日も、誕生日も、疲れ切った夜も読まないといけなくなるぞと言うと、「へっちらだよ」という答えが返って来たのです。

それからあの偉大な書物の精神が家庭にあふれるのに、そう時間はかかりませんでした。わたしたちは、福音の原則を理解し始め、家族としても交わりを深めていきました。妻もわたしも、自分たちの証が強められるのを実感しました。子供たちも、いつの間にか聖文の物語を自分の言葉で説明できるようになっているではありませんか。まるで、伝道に出て、何年も教えている宣教師たちのようにです。このチャレンジを受けることによって、わたしたちの生活は永遠に変わったのです。アメリカ合衆国ワシントン州ポウルズボ、ショーン・オレアリ

人のために受けた導き。このチャレンジにこたえて読んでいたとき、モーサヤ書第18章だけが、どういうわけか頭から離れませんでした。それから2日後、わたしはある新会員から相談を受けました。(当時、わたしは支部長として奉仕していました。)この兄弟は、自分がすでにほかの教会でバプテスマを受けているのに、なぜまたこの教会でバプテスマを受け直さないといけなかったのか、その理由がもう一度知りたいということでした。わたしはためらうことなく、モーサヤ書を開き、第18章を読んでほしいと言いました。彼が読み終わると、しばらく沈黙の時間が流れました。やがて、この兄弟は「わたしはあなたに相談するようにという導きを受けたのです」と言ったのです。わたしは静かに頭を垂れ、預言者という贈り物を頂いていることと、預言者を通じてモルモン書を再読するようにというチャレンジが与えられたことに対して、天の御父に感謝したのでした。ナイジェリア、イジェブ・オデ、アキンバデ・A・オジョ

わたしたちが受けられる祝福。モルモン書を読み始めたとき、わたしの生活に変化が起り始めました。朝、目を覚ますと、天の御父に祈って、感謝の念をお伝えするようになりました。天の御父について知っているという祝福や、救いの計画、そして福音が回復されたことに感謝するのです。預言者からのチャレンジを受け入れたからこそ、自分がこのような変化を経験できたのだと思います。預言者は、わたしたちが耳を傾け、従いさえすれば、どれほど多くの祝福を受けられるようになるか、よく知っていたのです。

わたしは自分の経験から次のような疑問を持つようになりました。「わたしたちはなぜこのチャレンジを受ける必要があったのでしょうか。」「わたしたちが毎日モルモン書を読みさえすれば、こうした祝福はいつでも受けられるはずですよ。そのことを悟るのに、わたしたちにはどれくらいの時間が必要なのでしょう。」「ウェールズ、メルセア・ティドフィル、アンジェラ・ブロードリック■



ホ ン コ ン 香港神殿が 建つまで



ヒンクレー大管長が
中国香港神殿用地を
選定した経緯から、
どのようにして
啓示が地上の神の子供たちを
祝福するかがよく分かります。

七十人

モンティ・J・ブラフ長老
ジョン・K・カーマック長老

1991年春、大管長会はアジア地域会長会のモンティ・J・ブラフ長老、W・ユージーン・ハンセン長老、マーリン・R・リバート長老に、内密に香港の神殿用地を探し始めるように指示しました。しかし、見つかったのは、適切とは言い難い、狭くて、値の張る土地ばかりでした。同年4月、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は候補地を訪れ、引き続き探すよう地域会長会に指示しました。

1991年暮れ、さらに二つの土地が候補に挙がりました。一つは政府開発プロジェクトが実施されている地区の中にあり、地元住民にジャンクベイ(将軍澳)と呼ばれる湾の近くにありました(ジャンクとは伝統的な中国の船のこと)。もう一つの候補地は、粉嶺(フィンレン)にありました。粉嶺もジャンクベイも、将来神殿に参入する人にとって、あまり交通の便がよくありませんでした。そこで、さらに探し続けることにしました。

あいにく、時間は多く残されていませんでした。香港に神殿を建てるのに最も良い時期は、1997年7月1日以前だったのです。

なぜ1997年7月以前に香港の神殿建設を完了しなければならないかを理解するには、少し世界史を振り返る必要があるかもしれません。





上——香港神殿
鍬入れ式に参加した
指導者たち。

左から、戴國源
長老夫妻、
ジョン・K・カーマック
長老夫妻、
デビッド・E・ソレンセン
長老夫妻。

右ページ——
建築完成予想立面図、
神殿完成見取り図、
香港の風景。

1898年、イギリスは99年の期限付きで香港を租借し、植民地としました。その期限が1997年6月30日に満了することになっていたのです。1984年12月にイギリス・中国両国の高官は、1997年7月1日に香港がイギリス政府から中華民国に返還されるという宣言に調印しました。

1992年6月、地域会長会が再組織され、会長会として、モンティ・J・ブラフ長老、ジョン・K・カーマック長老、戴國源長老が召されました。

同年7月、ヒンクレー大管長は地域会長会を2度招集し、粉嶺とジャンクベイの候補地について話し合いました。さらにヒンクレー大管長は、教会施設部の実務運営ディレクターであるテッド・シモンズを伴って、同月25日に香港を訪問し、神殿用地を選定することを明らかにしました。

ヒンクレー大管長とシモンズ兄弟が到着すると、ブラフ長老とカーマック長老は、当時アジア地域事務所が入っていたコムトンホールを手始めに、6つの候補地を案内しました。(戴長老は当時、旅行で不在でした。)すべての候補地を見て回った後、ヒンクレー大管長、シモンズ兄弟、ブラフ長老、カーマック長老は、香港地域の4人のステーク会長と話し合いました。ヒンクレー大管長は候補地の感想を話し、ステーク会長たちの意見を求めました。すると、彼らはいかなる決断でも大管長を支持する考えであることが分かりました。

その日あちこちを祈りながら見て回った一行は、疲れ切っていました。ヒンクレー大管長は、休息を取るためホテルに引き揚げ、そして、ブラフ長老とカーマック長老に、翌朝また集まってさらに話し合うことを伝えました。地域会長会には、ヒンクレー大管長が承認することのできる答えがまだ見いだせませんでした。

翌朝6時45分ごろ、ヒンクレー大管長はブラ

フ長老に電話をしました。「8時にカーマック長老と一緒にホテルに来てください。」約束の時間に、シモンズ兄弟も現れました。ヒンクレー大管長は彼らに1枚の白い紙を見せました。それは、大管長が描いた詳細な建物の図でした。昨夜のうちに、大管長は、最上階に神殿、その他の階に様々な施設が入った地上約8階建ての建築物の構想を立てていたのです。この構想は九龍東ワードの集会所と、香港伝道本部の住居とその事務所を建て直すことを意味していました。そうするには、コムトンホールの隣にあるワードの集会所と伝道本部を取り壊す必要がありました。ヒンクレー大管長は、当時の神殿はどれも神殿としての機能だけを果たす建物であったので、神殿以外の機能をあわせ持つという考え方は、それまでの伝統を逸脱することになると話しました。

ヒンクレー大管長は、ブラフ長老とカーマック長老に意見を求めました。二人はそれぞれ、神殿でありながら、神殿以外の機能もあわせ持つ多層階の建築物は過去に例がないが、ヒンクレー大管長が、主が意図されたことに関して「靈感」を、いやむしろ「啓示」を受けたのだという強い確信を抱いたと述べました。

ほかの案についても短く検討した後、ヒンクレー大管長は兄弟たちに、一緒に祈るよう頼み、自分が祈りをささげても差し支えないかと尋ねました。そして、大管長はこの件に関するすべてのことについて主と話し合いました。大管長は、中国に神殿を建てることは、世界のこの地域に住む人々を祝福するために必要であると述べました。その祈りは力強く、感動的であり、大管長がすべてのアジアの人々を愛していることがひしひしと伝わってきました。

それから、その場に居合わせた兄弟たちは、九龍東のその立地へ戻り、周辺を注意深く確認して回りました。近隣の環境を調べるために通りを渡り、あらゆる角度から候補地を眺めました。特に地下鉄からの交通の便を入念に調べました。そして、ブラフ長老とカーマック

地域会長会は、以前のヒンクレー大管長の香港での経験について語り、あのときに受けた印象について証^{あかし}しました。そして地域会長会は声を一つにして、教会はヒンクレー大管長が香港で描いたあの始めの構想に立ち返るべきであると言いました。

ヒンクレー大管長のスケッチに込められた最初の構想を反映させて設計し直すと、必要な認可がすぐに下りました。数日のうちにイギリス、香港、中国の様々な担当官が、神殿建設のために必要な許可証を発行したのです。

1996年5月26日と27日に、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、中国香港神殿を奉獻しました。その奉獻の祈りは次のようなものでした。

「この地域におけるあなたの教会は、今、この神聖な神殿の奉獻をもって完全に成熟するに至りました。この霊の刈り入れが、これからも続きますようにお祈りいたします。現在と同じように将来においても、あなたの民が自由にそして安全に礼拝することができますように、この地域に召された

宣教師の奉仕を妨げる者が一人もいませんようにお祈りします。あなたの業が、この偉大な中国の地において発展し、繁栄しますように、また、この国の統治者が、啓示された真理を伝えるために召され、遣わされる者たちをとこしえに受け入れてくれますように、お祈りします。」■

モンティ・J・ブラフ長老は、1988年、七十人会員として支持されました。ジョン・K・カーマック長老は、1984年から2001年にかけて、七十人会員として奉仕しました。

長老は、ヒンクレー大管長とシモンズ兄弟^{カイトラック}を啓徳国際空港まで送りました。

ソルトレークに戻ると、ヒンクレー大管長は、自分が描いたスケッチを神殿部に持って行き、その構想を基にできるだけ早く具体的な建築計画を作るようにと、建築師に言いました。建物の機能を増す機会を与えられた神殿部の建築師たちは、ヒンクレー大管長が当初考えていた大きさの2倍の建物にする計画を立てました。彼らの計画に従って建築するには、この地域に応じた高さ制限やその他の建築基準法について特例の認可を受ける必要がありました。

計画が完成し、拡張した新建築物の建設許可を求めました。しかし、数か月に及んだ香港当局と交渉の後、建築申請は却下されました。

1993年4月の総大会に、ヒンクレー大管長はシモンズ兄弟、ブラフ長老、カーマック長老、戴長老を執務室に招きました。大管長は、なぜ承認手続きにこれほど時間がかかっているのか、建設認可を受けるにはどうすればよいのかを尋ねました。





父の最後の言葉



什分の一の原則は本来、
金銭ではなく、
信仰の原則です。

南アメリカ南地域
地域七十人
ホルヘ・ルイス・デル・カスティヨ長老

人生における最大の祝福の一つは専任宣教師として奉仕できたことです。わたしは3人兄弟の長男だったので、家族全員にとってわたしの伝道はすばらしいものでした。両親は改宗者で、わたしが4歳のときにバプテスマを受けました。二人の立派な宣教師が、アルゼンチンのブエノスアイレス南部の郊外にあるベルナルで、我が家を訪ねてくれたおかげです。結果として両親は、信仰を通してとても幸せになったので、子供であるわたしたちにも、ほかの人が同じ信仰を見いだす助けをしてほしいと常々望んでいました。

伝道の最初の1年が過ぎ、すべては順調に運んでいました。アルゼンチンのコルドバで奉仕していたときのことです。家から悲しい知らせが入りました。父が重い病気にかかっていたのです。少し前に手術を受け、医師によれば、病気がだいぶ進行しており、死期が迫っているというのです。

伝道部会長はわたしに、家に帰って父を見舞い、翌日伝道地に戻って来るように言いました。そこで帰宅すると、父は危篤で、意識が戻ることもほとんどなく、微動だにしませんでした。わたしは時間の大半を父のベッドのわきで過ごしました。その間、悲しみと平安が入り混じってはいましたが、御霊と豊かに交わることができました。何を考えても、主とその偉大な

計画に思いが集中しました。

ある時点で、父の意識が戻りました。父はわたしを見ましたが、だれなのか分かっていないようでした。けれどもわたしが、父をどれだけ愛しているか、息子であることをどれほど感謝しているかを話し始めると、父には伝道中の長男が話しているのだと分かったようでした。父は涙を流しながら、懸命に思いを伝えようしました。「お母さんは信仰が篤い。わたしたちの模範だ。」そして父の口からはっきりとこの言葉を聞きました。「食べる物が何もなくても、必ず什分の一を納めるんだよ。」

それ以上は、あまり何も言いませんでした。わたしは父の言葉を日記に書き、家を後にして、伝道地に戻りました。父が亡くなったのは、それから数時間後のことでした。

時がたち、自分の家族ができて子供が成長するのを見てみると、この父との経験が心に浮かんできました。生と死の意義について深く考えながら、こう思いました。「もしこの世を去る時が来たとき分かったなら、最期にどんな助言の言葉を子供に残すだろうか。」わたしには父がくれた助言より良いものは考えつきません。「食べる物が何もなくても、必ず什分の一を納めるんだよ。」

什分の一の律法はわたしたち家族にとって大きな祝福です。わたしが学んだのは、主がわたしの什分の一を必要としていらっしゃるのではなく、この律法に従って得られる祝福を必要としているのはむしろわたしの方だということでした。

また、献金の封筒が膨らんでいるか、それとも、わずかな硬貨しか入っていないかは問題ではないことも学びました。什分の一が収入の10パーセントであれば、主に対する義務を果たしたことになるのです。什分の一を納めると、わたしたちは主の仲間になります。わたしたちは神殿の建設を支持します。神殿では家族が、イエス・キリストの回復された福音の儀式のすべてを受けることができます。わたしたちは集会所の建設を支持します。毎週日曜日に家族と集会所に集い、ふさわしければ聖餐を受けることができます。わたしたちは伝道活動が地の果てまで及ぶように、その一端を担うことを支持します。そして最後に、教会が「日の栄えの世界の下にある他のすべての造られたものの上で自立する」よう支持します(教義と聖約78:14)。

わたしは什分の一の律法は、家庭の守りの律法であり、家族の財産を堅実に管理するに当たって最も大切な原則であると考えています。

什分の一の原則を理解している教会員は、本来これが金銭ではなく信仰にかかわる原則であると知っています。主の約束に対する信仰を持ちましょう。主は宣言されています。「わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさい。」(マラキ3:10) ■

ホルヘ・ルイス・デル・カステイヨ長老は、1997年から2005年まで地域七十人を務めました。



3人の手に渡った クリスマスプレゼント

デリーン・グラスミック

わたしはこれまで11年間、ユタ州プロボにある「食料および宿泊支援の会」で路上生活者や困窮者に無料で食事を出す施設を運営してきました。ここに来る利用者には、できるときには手伝うようにと勧めていました。マイク(仮名)という男性は約4年間、車の中で寝泊りをしていました。いつも仕事を手伝ってくれたので、彼にはとても感謝していました。

クリスマスが近づいたころ、わたしは感謝の気持ちを表すために、簡単な感謝の言葉を書いたクリスマスカードを添えて、近くにある安い映画館の回数券を贈りました。マイクは感激し、前にプレゼントをもらったのはいつのことだったか記憶にないと、何度も何度もお礼を言いました。

事が起こったのは、クリスマスイブの昼ごろでした。その日の夕食の後、マイクは映画の切符を2枚上げてしまったと詫言を言いに来ました。そこでわたしはあの回数券はあなたに上げたものだから、何なりとあなたの自由にしていいのよと言いました。マイクはこう説明しました。「実は、食事のときテーブルの向かい側に女の人が

座っていました。知らない人でしたが、今日は自分の誕生日なのに何もプレゼントをもらってないと言ったので、映画の切符を1枚上げました。」

マイクは続けます。「ちょうどそのとき、隣に男の人が座っていました。話してみると、彼は今夜バスに乗るけれど、バスは11時に出るのにそれまで居場所がないと言うんです。それで暖かい映画館の中で映画を見ながらバスを待つことができるように、その人にも映画の切符を1枚上げました。」

この話を聞くと胸がいっぱいになり、涙が込み上げてきて、あなたのしたことは何て優しい、キリストのような行いなのでしょうと言うのが精いっぱいでした。■



「暖かい映画館の中で映画を見ながらバスを待つことができるように、その人にも映画の切符を1枚上げました」とマイクは説明しました。



クリスマスのタマーレ

イナ・ブルシオン

コスタリカでの伝道があと2か月ほどで終わるといころ、アメリカ人のグエン姉妹という同僚と伝道していました。クリスマスを祝おうと胸を躍らせ、住んでいた小さな町の友人や家族に配れるように、あめやクッキーを入れた小袋を準備していました。

わたしは伝道のほとんどを貧しい人たちの住む区域で行いました。そのことを心から感謝しています。簡素な家に住む人々に教え、彼らの中で生活して、そこに住む人々の親切で謙遜な様を見、犠牲の精神を学ぶ機会を、主は祝福として与えてくださいました。

最後にお菓子の袋を届けたのはカルモナ家族でした。人数が多く、ワードでもいちばん貧しそうな家族でした。薄い板金をはった小さな木造の家に、両親と子供、親戚や孫が同居していて、電気をはじめ生活が楽になるような近代的な設備や道具は何もありませんでした。家族はクリスマスに食べる伝統料理のタマーレ（訳注——トウモロコシ粉の生地にはひき肉などの具を包み、トウモロコシの皮に包んで蒸した料理）を作っていました。わたしたちはお菓子を配り終えて、家に戻りました。

クリスマスの日の朝早く、玄関をた

たく音がしました。驚いたことに、カルモナ家の13歳になる息子のミノールが立っていました。手には小さな包みを持っています。

ミノールは言いました、「姉妹たち、タマーレを届けるように母に言われて来ました。メリークリスマス。」

カルモナ家族がわたしたちのことを心に留めてくれたことに心から感謝しました。わたしも同僚も、自分の家族からはまだ何も届いていなかったし、プレゼントがもらえるという期待もしていなかったからです。そして恐らくは、自分たちが食べる分がろうじてやっとなだけだと思われるこの家族が、クリスマスにこしらえた「ごちそう」を分けてくれたのです。

この包みを見せると、同僚の頬に涙がこぼれ始めました。「姉妹、どうしたの。」わたしは尋ねました。

同僚の答えはとても短いものでした。「ブルシオン姉妹、今日はクリスマスなのよね。」

そうです。クリスマスだったのです。カルモナ家族はキリストにするのと同じように、わずかな食料をわたしたち宣教師にも分けてくれたのでした。それはあのクリスマスの日に受け取ったただ一つの贈り物でした。わたしはこの贈り物を一生忘れないでしょう。■

気難しい隣人

ダイアン・ハバード

夫とわたし、幼い息子と娘の4人家族が2階建てのアパートに住んでいた時のことです。その年、2人の子供と迎えるクリスマスを楽しみにしていました。息子はすくすくと育ち、元気のいいよちよち歩きの赤ちゃんがよくするように、そこかしこ動き回りました。アパートの中をはしゃいで走り回ることも度々ありました。息子のこっけいなしぐさをわたしたちは楽しんでいたのですが、階下の住人はだいたいいらだっていたようです。仕返しにしばしば音楽のボリュームを上げたり、苦情を言いやってきました。

これにはほんとうに困ってしまいました。歩きだしたばかりの男の子に自由に動き回るなど言う方が無理な話です。元気いっぱいにはしゃぎ回る子供をおとなしくさせるのは、胸が痛みました。そこでアパートの管理人とこの隣人と会って、騒動を何とか解決しようしました。3者で話し合っているうちに、彼の物言いやそぶりに、特に自分を守ろうとむきになっている様子が見られるのに気がつきました。そのときマタイによる福音書第5章44節に書かれている主の言葉が心に浮かびました。「あなたがたの敵を愛し、のろう者を祝福し、憎む者に善をなし、悪意をもって自分を利用する者、迫害する者のために祈れ。」（欽定訳マタイ5：44から和訳）別に彼を敵だと思っていたわけではありませんが、考え方が対立していたのは確かです。

彼は軍人で、奥さんがまだ任地に到着していなかったために、慣れない町で独り暮らしをしていたのでした。そ



わたしたちは
大きな音で
なり続ける

音楽を無視し、
心を込めて隣人に
メリークリスマスと
言いました。

のうえ、職場からアパートに帰って来ると、階上の騒音にいやおうなしに悩まされていたのです。彼にとって生活がどんなに大変なのかが分かってきましたが、でも双方が満足する解決策はまだ模索中でした。わたしは彼のために祈り始めました。すると、もう少し思いやりの心を持つようになりました。

その年、夫の両親がクリスマスと一緒に過ごすために我が家に来ました。クリスマスイブにはだんらんのときを過ごし、特別なクリスマスの雰囲気を楽しんでいました。すると間もなく、1階から大きな音楽の音が聞こえ、振動が伝わってきました。このときは特に大きな音でしたが、業を煮やすというよりもむしろ気の毒に感じたことを思い出します。マタイによる福音書第5章の聖句を思いながら、階下の隣人のために自家製のクリスマスクッキーを

紙皿に取り分けました。

それから、クッキーを夫と二人で持って降りました。玄関を開けたとき彼は苦虫をつぶしたような顔をして言いました。「何の用だ。」嫌なことを言われると覚悟して出て来たのは明らかでした。一方わたしたちは大きな音でなり続ける音楽を無視し、心を込めてメリークリスマスと言いました。笑顔で話すと、クッキーを受け取る彼の表情が和らぎました。そして笑顔を浮かべて感謝の言葉を述べ、わたしたちに対してもメリークリスマスと言ったのです。間もなくやかましかった音楽の音が小さくなりました。

数日後、外で会ったときに、クッキーをありがとう、もう一度お礼を言われました。そのときも笑顔を見せていたので、笑顔でこたえるのは難しいことではありませんでした。彼は引っ越し

て来て間がないこともあり、行っている教会があるのか尋ねると、まだないという答えでした。そこでわたしたちの教会へ一緒に行かないかと誘うと、同意してくれたのです。彼は宣教師の話聞くようになり、間もなくバプテスマを受けたいと言いました。そしてバプテスマの日には息子と一緒に写真を撮りました。

それ以後は大きな音に悩まされることはなかったと思います。ただ毎日の生活の中で聖文に従うことによって特別な祝福があったことはよく覚えています。クリスマスのクッキーという何でもない贈り物が、瞬く間に不愉快な人間関係をすばらしい友情に変えてくれたことを思い出すと、今でも心が温まる思いがします。■

空っぽのポケット

ジェリー・L・ザーグ

1979年、当時はわたしたちもまだ若く、家計は苦しいものでした。わたしはコロラド州立大学の学生でした。学生ローンと妻が働いて得た収入はわずかな額ではありましたが、普通預金口座に直接入金されていました。生活費は予算を立てて、そこから1週間分ずつを引き出していました。クリスマスが近づいてきたときも、その年のクリスマスは質素なものになると分かっていました。

ある金曜日の夜、クリスマスのわくわくする雰囲気を味わえるように、わたしは4人の子供のうち上の2人を近くの大きなショッピングセンターへ連れて行くことにしました。途中銀行へ寄り、まだ月の初めでしたがクリスマスでいつもよりお金がかかることを見越して、12月分の生活費を全額下ろしました。お金はすべて小額紙幣にしておきました。

雪は降っていませんでしたが、肌を突き刺さすような冷たい風が吹いていました。着いてみるとショッピングセンターの駐車場は車であふれかえていたので、子供たちを大急ぎで車から降りして、明るくて暖かいショッピングセンターの建物の中へ入って行きました。

豪華な飾り付けや快い香りを楽しみながら、1時間以上も店から店へと歩き回りました。最後にアイスクリームを食べて家へ帰ることにしました。しかしそのとき、さっきまで札束で膨らんでいたシャツのポケットが空っぽになっていることに気がつき、心臓が止まりそうになりました。

自制心を失いそうになるのを抑えながら、急いでこれまで通った道を引

き返してみました。お金を拾った人はいないかとあちこちで尋ねましたが、その度に見なかったという答えが返ってきます。絶望感に襲われました。最後に警備員のところへ行ってみましたが、何の成果もなく、悲嘆に暮れて家に帰りました。

心配して待っていた妻に悪い知らせを伝えました。クリスマスの特別な買い物どころか、食費や家賃、光熱費など、その月の必要経費をどうすれば捻出できるというのでしょうか。子供たちは小声で泣きだし、ささやき合っていました。重苦しい雰囲気の中で、導きを求めて家族の祈りをしました。そして失くしたお金を埋め合わせるために、できもしない方法をあれこれと話していた、ちょうどそのときに、電話が鳴りました。

ショッピングセンターの警備員からでした。「先ほどお金の紛失届けを出されたのはお宅ですか。」

「はい、そうです。」

「金額は幾らでしたか。お札の種類は何でしたか。」

質問に答えると警備員は、もう一度こちらに来てもらえますか、と言いました。

はやる気持ちを抑えながら、先ほどのショッピングセンターに駆けつけました。警備員の言葉によると、数人の人が駐車場で風に舞っていた小額紙幣を拾って届けて

くれたということでした。数えてみると、失くしたお金と同じ金額でした。お金を拾って正直に届けてくれた人たちは名前も言わなかったので、お礼を言うことすらできません。札束を受け取るとき、警備員からメリークリスマスと声をかけられました。そして苦しみから救われて深く感謝しながら、家路に就きました。

それから家族全員でひざまずき、与えられた祝福に対して感謝しました。クリスマスは我が家のささやかな家庭にも訪れ、わたしたちは永遠につながる大事な教訓を学びました。お金を届けてくれた正直な人たちは、わたしたちにとってすばらしい模範となりました。御子の生誕を天の御父に感謝するのに、ほんとうのクリスマス精神を実践すること以外の方法があるでしょうか。■



クリスマスプレゼント

わたしたち夫婦は3人の子供と、1980年9月27日にバプテスマを受けました。フィリピン・パナイ地方部に属してから、わたしは地方部評議員の召しを受けました。その召しの責任の一部として、7つの支部を訪問しました。各支部を訪問してみて、タガログ語の聖典を持っている会員がとても少ないことに気づきました。それでわたしはクリスマスにタガログ語の『リアホナ』をプレゼントすることにしました。今でも、クリスマスプレゼントにはタガログ語の『リアホナ』を贈っています。

フィリピン

バブロ・M・ブトラン

様々な文化圏に広がる福音

わたしは毎月『リアホナ』が来るのを楽しみにしています。『リアホナ』から大きな喜びを感じます。福音が遠くの国々にもたらされ、人々の生活が変わっていく記事を読むのが好きです。異なった文化圏にあっても、人々は福音を受け入れ、福音に添った生活ができるのです。わたしにとってこのことは、福音がイエス・キリストの福音であるという確証です。

ドミニカ共和国

シリア・マリア・コルデロ

あかし 証を強める

毎月『リアホナ』を手にする祝福に対して、天の御父に心から感謝しています。とても楽しく読んでいます。中央幹部の勧告や世界中の会員の経験談を読むことで、日常生活で様々な決断を下すときに大きな助けを得ています。またイエス・キリストに対する証が強められています。『リアホナ』が大好きです。

エクアドル

シンシア・モラレス・イタルゴ



「しんでんカード」が大好きです

3年前にバプテスマを受けて、神殿について学び、とてもすばらしいと思いました。当時わずか4歳だった娘のイエシカは、そのころから、神殿を見に行くのが大好きでした。イエシカは『リアホナ』に載っている話が大好きです。「しんでんカード」も大好きで、集めています。わたしも娘を通して、主の宮に対する証を強めることができました。

ドイツ

ペートラ・ロンゲリッヒ

ありがとう

皆さんの時間と労力に感謝しています。『リアホナ』が大好きで、いつも楽しく読んでいます。絵も話も心の糧になっています。わたしには福音がすべてで、これ以上の幸せはありません。この教会が大好きです。心から真の教会だということを知っています。皆さんのために祈り、また、すべてを感謝しています。

メキシコ

クリスチャン・ジョセミス・スアレス・ロドリゲス

記事をお寄せください

教会指導者として新しい会員やあまり教会に来ない会員に助言や手助けをしたときに、『リアホナ』が役に立ったことがありますか。人の手助けをするうえで『リアホナ』が役立ったいきさつを書いた記事を募集しています。自分自身の経験でも、ほかの人の経験でもけっこうです。

記事(500字以内)は2007年1月15日必着で、Liahona@ldschurch.org または以下の住所にお送りください。

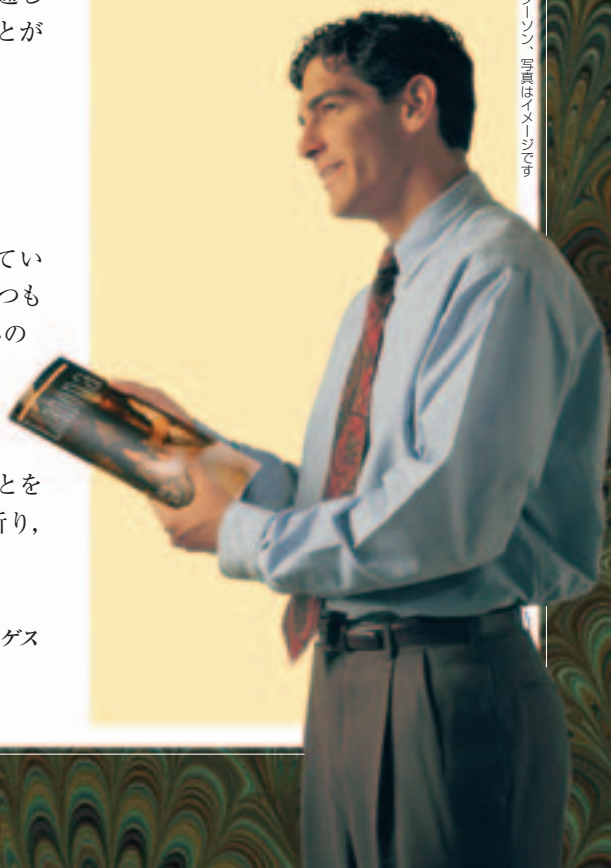
Liahona, Using the Liahona

50 E. North Temple St., Rm. 2420

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

住所、氏名、電話番号、電子メールアドレス、ワード/ステーク(支部/地方部)を明記してください。

原稿の受領通知を個別にお送りすることはありませんが、採用時には採用通知をお送りします。



写真/スティーブ・ハンターソン、写真はイメージです



第7回国際美術コンテストの応募作品

「決意」 ジュリー・ロジャース画

1856年10月23日、荒れ狂う吹雪の中を、ジェームズ・カークウッド(11歳)は弟ジョセフ(4歳)を担いで、ワイオミング州にあるロッキーリッジの8キロに及ぶ坂を登った。

その夜、ワイリー手車隊のうち15人が亡くなり、ジェームズもその中にいた。

第7回国際美術コンテストの応募作品



20 06年12月, 今年もまた
救い主の降誕を祝う季節が来ました。
預言者ジョセフ・スミスが生まれて
今年で201年になります。

1年前の今ごろ, 預言者の勧告にこたえて
モルモン書を読破した, あるいは読んでいた
教会員が大勢いました。

あの勧告にこたえた会員は口々に, こう証^{あかし}しています。

「預言者の約束が成就し, 家庭や生活の中に,
「さらに豊かに主の御霊^{みたま}が注がれました。

そして, 主の戒めに従って歩もうとする決意が強められ,
神の御子が確かに生きておられることが
さらにはっきりと分かりました。』

「チャレンジにこたえて」34ページ参照

